

「世界津波の日」高校生サミット in 黒潮 アンケート分析と提言

2017 年 2 月 22 日(水)

一般財団法人 日本国際協力センター

I 目的達成度

1. 成果指標

成果指標は、海外参加者 284 名（生徒 246 名・引率教員 38 名）、国内参加者 156 名（生徒 110 名、引率教員 46 名）計 440 名を対象に行った事後アンケート（別紙 1）とした。

事後アンケートは、大別して「1.高校生サミットに参加した成果について」「2.サミット後の活動について」「3.サミットの企画・運営について」問うものとした。本項目では、「1.高校生サミットに参加した成果について」「2.サミット後の活動について」報告するものとする。

有効回答数は、415 名（回答率 94.3%）となった。アンケート集計結果については、別紙 2 の通りである。

2. 参加者の成果について

防災に関する知識の点では、「自分が住んでいる地域で想定される被害」及び「防災対策」について知識が深まったかという設問（問（2）及び（3））に対して、「非常に深まった」「ある程度深まった」とする回答を合わせると、被害の知識は 96.1%、防災対策については、97.6%が「深まった」と回答している。

更に、他の地域・国の災害及び防災対策についての知識が深まったかという設問（問（4）及び（5））に対しては、「非常に深まった」あるいは「ある程度深まった」とする回答を合わせると、災害については 97.3%、防災対策については 95.6%となる。参加高校生から、「他国の災害への意見や災害の実例を知れたことは、とても参考になりました。特に良いなと思ったのは、学校に災害対策チームを設け、医療行為の仕方などを学び、自助・共助に役立terるというものです。」等の感想も寄せられた。

また、新たな発見や気づきを得られたかという設問に対しても、「大いにあった」「ある程度あった」との合計が、96.3%である。

防災の重要性（問（7））についての問いには、89.7%が「とても強く感じるようになった」9.6%が「ある程度強く感じるようになった」と回答しており、「これからは私たちが家族や学校、地域においてリーダーとなり、みんなを守らなくてはならないと思いました。」等の感想にもみられる通り、情意の面でも、効果を伺うことができる。

グローバルネットワークの育成の観点では、引率教員への「他の学校・国との交流は生徒にとって、有益なものとなったと思うか」という設問（問（8））に対して、「強く思う」と「ある程度思う」の合計が 100%であり、実際に、参加生徒の 69.5%が、「出会った 7 人以上の他の学校の生徒と連絡先を交換した」と回答している。「日本では、自分達のあたりまえを見直すという機会がまったくない。だからこそ海外の人達とコミュニケーションを

積極的にとること」という感想にも見られるように、ネットワーク構築のために交流を深めることができた様子が伺える。

3. サミット後の事後活動について

サミット後の具体的な活動についての問いに対しては、学習の継続について、99.4%が継続の意思を回答、学校や地域での避難訓練の呼びかけが、92.7%、その他防災の啓発活動への参加が 97%、被災地の復興活動への参加が 98.2%となっており、積極的に取り組む姿勢が伺われる。

今回のサミットで各学校が発表したアクションプランについては、「3 ヶ月以内に実施する」が 23.2%、「半年以内の実施」が 21.4%、「1 年以内の実施」が 28.9%となっており、計 73.6%が、1 年以内の実施を回答している。また、他の学校や国との協力については「協力したいと強く思う」あるいは「ある程度思う」とする回答を合わせると 94.8%となり、他の学校や国との協力への高い意欲が示されている。

「これから先、世界中で震災、災害は必ず起こります。それがたとえ日本でも、海外であっても、できるだけ多くの人の命が助かるように若き津波防災大使の私たちが、世界中の人々の意識を上げることを求められてくると思います。」に代表されるコメントが多く寄せられており、参加高校生が「若き津波防災大使」として高い意識を持って行動することを表明している。

4. 目標達成に関する結論

開催要項では、開催趣旨について、本サミットが、「世界津波の日」の啓発イベントとして開催されること、また、「今回の高校生サミットは、防災の知見と地震津波の脅威を伝え、必要な防災、減災、迅速な復旧復興、国際連携に資する施策を総合的かつ計画的に実行することで、地震津波から国民の生命、身体、財産の保護、国民生活及び国民経済に及ぼす影響を最小化できる、国土強靱化を担う将来のリーダーを育成すること」を目的に開催」することがうたわれている。

「世界津波の日」の啓発という点においては、当日、多くのメディアに取り上げられたことから、直接参加した国内外の高校生のみならず、絶大な効果があったものと思われる。

また、防災の次世代リーダー育成という目的に対しても、事後アンケート集計結果から、知識の面、情意の面、ネットワーク育成の面、また、実際の活動の促進という点においても、大きな成果があったものと読み取れる。「これからは私たちが、家族や学校、地域においてリーダーとなり、みんなを守らなくてはならないと思いました。」「三年後には日本だけでなく世界の防災リーダーになれるくらいの知識と行動力を持っていたいと思います。」との参加高校生の感想文や、「本校でも、高校生による国際会議を SGH の取り組みでここ 3

年ほど行っているのですが、参加した生徒達の満足度や真剣度は、今回の方が高かったかもしれません。」という引率教員からのコメントからも、本サミットの一連のプログラムが、高校生の防災意識と社会に対する責任感を大いに向上させたものとする。

更に、高知県内の高校からは「今回のサミットへの準備を通して、本校の防災意識も高まったと思う。教員同士で防災について話し合う機会も増え、～（中略）～多くの教員の協力を得ることが出来た。～（中略）～またサミットへの準備を通して、本校の防災活動の課題も浮き彫りになった。」というコメントがあり、地域の防災活動の促進という副次的な効果も得られた。

Ⅱ 実施状況と課題

1. プログラムコンテンツに対するアンケート集計結果

別紙 2 のアンケート集計によると、「もっとも有益であった活動」については、国内高校生は、1 位「分科会で他の学校の発表を聞いたこと」、2 位「分科会でディスカッションしたこと」3 位「分科会で発表したこと」となり、回答数にも大きな差が無く、分科会に係る部分が、有益としている回答が多い。

一方、海外高校生は、1 位は、回答数に差がついて「高台避難訓練」、2 位が「分科会でディスカッションしたこと」、3 位と 4 位の差があまりなく、3 位が「高校生サミットとして世界に向けて宣言したこと」、4 位が「東日本大震災被災地からの報告」となり、避難訓練や東日本大震災語り部講話等、これまで経験がある国内高校生と、経験のない海外高校生の差が顕著にみられた。

国内、海外、生徒、引率教員の総合計でみると、1 位「分科会でディスカッションしたこと」、2 位「高台避難訓練」、3 位「分科会で他の学校の発表を聞いたこと」となる。

2. 各プログラムの実施状況

(1) 開会式

参加国紹介は、流れもシンプルで、スムーズでもありかつ、会場全体で歓迎の雰囲気を作ることができたものと思われる。主催者あいさつも力強く、参加高校生に対しメッセージを発信できた。OECD 東北スクールの報告についても、導入の意識を高める効果があったものと思われる。

(2) 分科会

① 事前準備

別紙 2 アンケート集計によると、分科会のテーマ・分野は、92.2%が分かりやすかったと回答している。「分科会のテーマも、「知り、備え、復興」と災害のことだけでなく、その前後を入れたこと」によってさらに危機意識の高まりを感じることができた。」とのコメントも引率教員から寄せられた。一方、「分科会のカテゴリにつきましては適切な設定であったと思いますが、より議題を焦点化すると、議論が噛み合うのではないか」との指摘もあった。

準備期間については、92.3%が適切であると回答し、資料についても、94.3%が十分であったと回答している。

② 25 日分科会ブリーフィング

翌日の分科会本番に向けてのアイスブレイク・ブリーフィングは、必須だったと思われるが、**会場の環境が悪かった**との声が多かった。グループ毎の記念写真撮影を並行して行ったことも問題の一つであった。

③ 26 日分科会の進行

「他国の発表を聞く機会は、SSH 生徒研究発表会等で多少はあるが、一つの課題について直接小規模の分科会で発表し合い、意見交換するような機会は極めて珍しい。」とのコメントにある通り、分科会のディスカッションについては、総じて評価が高い。**グループの人数については、83.3%がちょうど良い**と回答、時間設定については、**29.2%がもっと長い方が良い**、**68.1%が、ちょうど良い**と回答している。

分科会の**進行については、88.9%がスムーズであった**と回答しているものの、分科会に配置になった、**JICE コーディネーターや教員のフォローが十分でないとの指摘**もあった。

司会を高校生が行ったことは、学習効果をあげることに繋がったが、「分科会では高校生主体で大人は通訳さんを含め、**ほぼ見守っているのみというのもとても良かった**です。」という意見にみられるように、多少進行に問題があっても、高校生に任せていた方が、学習効果があるとする意見と、「分科会司会校のメンバーに対して**もう少しフォローがあってもよかった**のかな、と感じております。ディスカッションや決議の際に、文化によって「これでよし」とする基準も違いますし、後ろから拝見している者にとっては「え、これでいくの？」と思ったシーンは何度かありました。しかし、こういう差などを感じるのもひとつの醍醐味ではあるので難しいところですが。」等、フォローをもっと入れるべきであったとの意見が両方見られる。

いずれにせよ、分科会の進行をフォローする、**「影」のファシリテーターには、質の均一化、発表要旨の事前提出段階からの係わりの課題**があった。

(3) フィールドワーク

避難訓練については、**海外参加者の評価が高かった**。また、国内引率教員からも「実際に避難する場合はあの高低差を逃げなければいけないことの大変さや、あの程度の人数でも結構混雑するのに人が殺到したらどうなるのだろう、など実際にやってみないとわからないことを実感していた」とのコメントも寄せられ、国内参加者からの評価もあった。

シェイクアウト訓練から高台避難の流れも良く、避難場所での前田校長による地元小学校の避難訓練事例の講話にも感銘をうける声があった。

(4) 記念植樹・記念撮影

26 日午前中のプログラムでは、海外の高校生となかなかコミュニケーションをとれなかった日本人高校生が、「記念植樹では、学校の代表としてタイの高校生とペアで植樹をしました。自分から英語で話しかける勇気がありませんでした。しかし、ペアの人が積極的に話しかけてくれたので、充実した会話をすることができました。」との感想をあげているように、記念植樹も一つの交流機会となったようである。

全体記念撮影は、天候にも恵まれ、無事撮影を行うことができ、分かりやすい誘導もあり、心配された時間延長もなく、次のプログラムに移ることができた。

(5) 総会

① ビデオメッセージ

「安倍首相や潘事務総長のメッセージに表れているように、国の真剣度が生徒達にも伝わった成果だと思います。関係者の皆さま方のご苦勞は計り知れなかったと拝察いたしますが、高校生達へのインパクト・影響は非常に大きかったと感じました。」との引率教員のコメントにも見られるように、冒頭のビデオメッセージは、参加者に対して大きな印象を残した。

② 東日本大震災被災地からの報告

「東日本大震災被災地からの報告」は、同世代からの熱意が伝わる報告となり、各分科会報告や宣言文の発表に先だって、真摯な姿勢を共有し、決意を高める効果があったものと思われる。前述の通り、海外高校生からの評価が高かった。また、国内高校生からも、「最も印象に残ったのは東日本大震災からの報告です。実際に大津波を経験した人の話を聞いて、津波の知識がないと助からないと思いました。“津波は一瞬で町を破壊した”という言葉が本当に適切な表現だと改めて気付かされました。」等の感想が寄せられた。

③ 分科会からの報告

分科会ディスカッションの報告は、12 グループ全てが行った。心配された、発表者の選定についても積極的に手が上がり、日本人高校生の発表者も出て、バランスが取れた。時間については、想定していた延長は無く、いずれの発表も 2 ～3 分とコンパクトにまとめられていた。報告内容については、発表者が内容を纏める時間が無く、各分科会で発表されたアクションプランの紹介が多かった。全体会合への各参加者のコミットを考えると、分科会でのディスカッションを全体会合で報告するという流れは作りたいが、より内容を充実させるためには、別の工夫が必要となるとと思われる。

④ 宣言文採択

宣言文のスクリーンでの表示も分かりやすく、円滑に実施されたものと思われる。

(6) フェアウェルパーティー

参加者人数の増加により、会場は、かなり窮屈になったが、参加高校生は、十分な交流の時間を持てたようで、「海外の方とも、日本の各県の人とも本当に楽しめました！」「記念植樹やサミット終日に行われたフェアウェルパーティーでは、日本食をはじめとする日本の文化について説明し、積極的な異文化交流ができました。」との感想が寄せられ、深い印象を持てたようである。

3. 追加したいコンテンツ

(1) 黒潮町の防災対策の講義

高台避難訓練に対する反応、分科会でのディスカッションへの感想をみると、他県、他国での防災の取組が非常に参考になったことが伺える。開催地での取組を紹介することも、意義深いことを考えると、黒潮町の紹介と合わせて、黒潮町の防災の取組に関する包括的な講義があった方が良かった。内容としては、雨天時の講義で用意されていたものが適切と思われる。更に、このプレゼンテーションを大方高校の高校生ができれば、参加者への刺激となったものと思われる。

(2) 避難所運営訓練～炊き出し訓練

より具体的な活動の紹介が、高校生参加者の意欲や活動を触発するものと思われる。フィールドワークの内容としては、避難所運営訓練の紹介等も検討したい。更に人手を必要とすることになるが、昼食を兼ね、炊き出しを行う方法も考えられる。

4. プログラム構成

プログラム構成の観点では、当初計画から、全体会合とグループ別プログラムを整理した流れは良かったが、時間設定が過密であったとの指摘が多い。また、前述の通り、分科会と、分科会内容の発表の間は、準備の時間を取る必要があると思われる。さらに、宣言文の検討の時間も設けたい。当初より問題が指摘をされていたが、昼食を取りながらの検討会は実施が非常に困難であった。可能であれば、あと半日追加できると、余裕を持つことができたものと思われる。

～例～

1 日目 PM	開会式 黒潮町とその防災の取組紹介 分科会アイスブレイク
2 日目 AM	分科会（3 時間 間にブレイクを入れる）
2 日目 PM	フィールドワーク 宣言文検討・分科会発表準備
2 日目夜	交流会
3 日目 AM	総会（基調講演、分科会発表、宣言採択）

5. 宣言文

宣言文の作成にあたっては、素案を作成後、メールにて各参加高校のコメントを取りつけ、高知県内高校の学習会で検討するという準備段階を踏まえ、当日も、各分科会代表者による宣言文検討会を実施するというように、高校生のコミットを引き出す工夫が取られた。更に発展させるとすれば、より早い段階（例：夏休み前）で、高校生の検討委員会をつくり、**テーマ内容そのものを高校生で検討、そこから宣言素案作成の段階へ進む、高校生主体の流れを作る**ことが望まれる。

6. 次世代リーダー育成の観点から

(1) アクションプランの充実

高校生サミットの目的である「次世代リーダーの育成」をより促進することを考えると、参加高校生**一人一人の学習プロセス**と、参加高校の**活動をいかに充実させるか**が、課題となると思われる。その方法として、**より具体的なアクションプランを作成させ、それを実行に導くこと**が考えられる。

今回、国内高校のアクションプランについては、9月の1次提出の段階で、JICEからコメントをつけて回答したが、専門性が不足していたことは否めない。また、海外のアクションプランについては、スケジュールの点で、事前のコメント自体が難しかった。人材の確保が可能であれば、**複数の専門家が、作成過程のアクションプランにアドバイスを与え、最終プランについても発表後にコメントできると良い。**

また、**サミット実施後の、各アクションプランの実施フォロー**も望まれる。

(2) 高校生のサミット準備への参加

高校生の情意面での成長を促すためには、**準備段階における高校生参加**を深めた。夏休み前には、地元高校を中心に、運営委員会を立ち上げ、**議事進行チーム、**

宣言文検討チーム、避難訓練チーム、交流会運営チームなど、セッション毎に係わる方法も考えられる。また、会場で使用するオープニング映像等も大人が用意するのではなく、高校生が作り上げる方法もある。

開催当日においても、開催地域の紹介や、避難訓練の説明も、可能な限り高校生が行うことによって、高校生の成長を促すことができるものと思われる。

7. 参加学校数・参加国数・参加人数

いずれも当初計画から、大きな変更があった。参加人数については、分科会・総会の運営や、会場計画に大きな影響を与える。この点からは、人数制限については、より厳格に考えて行く方向もありえる。

8. 会場

分科会の実施環境については、改善を要望する声が多かった。25日のブリーフィングにおいては、スペースが狭い、隣のグループと近くて声が混ざってしまった、26日では、音響設備があった故に、隣のグループの声が聞こえて進行しづらかった等の指摘があった。落ち着いてディスカッションする環境を準備することは、高校生サミットの成果そのものを左右するものでもあるので、考慮したい。海外高校生にとっての経験的な価値も考慮すれば、高校の教室を使用することを検討したい。

9. 広報

短い準備期間、当初想定よりも拡大をしていく事業規模、多くの事業関係者との調整等の背景もあり、ポスターやチラシの作成、メディアの巻き込み、早期のホームページの立ち上げ、実施後の広報について、統一的な広報戦略をもって望むことが難しかったものと思われる。

関係機関の不断の働きかけによって、当日は、多くの報道関係者による取材が行われたが、一方、報道関係者のコントロールが困難を極め、参加高校から、ルールを守らない取材についての問題点の指摘があった。

10. 宿泊

(1) 宿泊施設の選定

多くの国内引率教員により、交流促進の観点から、海外高校生と国内高校生の宿舎を同一にした方が良いとの提案があった。

また、青少年の家の利用にあたっては、「正直、部活動の合宿などの特定の管理者のもとでの指導には向いている場所ですが、今回のように多くの学校が混在するような機会には向いていない」と思いました。実際、夜間の生徒管理の責任の所在が明確でなく（引率教員も自校の生徒を把握しようにも把握しようがないし、特に、他校生徒を叱るわけにもいかず、かなりフラストレーションがたまっていました）、今回は何事も（恐らく）なかったのがよかったですが、とても難しいと感じました。」とのコメントにあるように、管理の難しさを指摘する声が多数あった。

一方、「幡多青少年の家では他校の先生方と同室となり、各校の状況や様々な取り組みについて意見交換することができた。」「入浴以外は特に問題を感じませんでした。8 人部屋ということで、同部屋の生徒と仲良くなれるか心配していた本校の生徒も 2 晩を楽しく過ごしたようです。」との引率教員からの意見もあった。

(2) 取扱旅行業者の選定

今回、海外高校グループを取り扱う旅行会社と、国内高校と関係者を取り扱う旅行社が分かれてしまい、2 社を調整する役割が発生した。また、当初、関係機関の宿泊と高知市からの移動については、自己手配が原則であったが、やはり調整が必要となった関係機関が多かったため、宿舍管理は混乱を極めた。取扱旅行社は、可能な限り 1 社にまとめて発注することが望ましい。また、宿泊管理だけで相当な業務量となるので、専門の担当セクションが必要であった。

11. その他

「高知県や黒潮町のみなさんに、たいへん温かいおもてなしをいただき、有難うございました。生徒たちもすごく心に感じていたと思います。」「到着時の体育館前から、帰路の列車に乗るまで、町長さんはじめ大勢の町民の皆様が駆けつけてくれたことが深く心に残っています。」「特に、帰りのバスが通る道路脇で手を振ってくださっていたのに感激しました。」「中国の（海南島）の生徒が日本をとてん気に入ってくれて、高知を出発するときの写真を送ってくれました。この写真にあるように雨の中、老いも若きも町の人々が大きく手を振っている姿は、きっと帰国後、中国の人々に広まり、中国の人々に日本のおもてなしの心が直接伝わるのだと思います。」等、現地での歓迎の仕方が素晴らしいとのコメントが多数寄せられた。

以上

別紙 1-2

**「世界津波の日」高校生サミット in 黒潮
実施後アンケート**

***Please fill in the blanks below in block letters in English.**

DATE: YY/MM/DD

Full name	
母国語表記	
School name	
Country	

この度は、「『世界津波の日』高校生サミット in 黒潮」にご参加頂きありがとうございました。
本プログラムのアンケートへ協力をお願いします。
以下の質問の該当する回答に✓をご記入ください。

【1. 成果について】

(1) 生徒にとって最も有益であったと思われる活動は、何ですか。5 つ選んでください。

- () 1. 発表のための事前学習
- () 2. OECD 東北スクール発表
- () 3. 分科会で発表をしたこと
- () 4. 分科会で他の学校の発表を聞いたこと
- () 5. 分科会でディスカッションしたこと
- () 6. フィールドワーク(高台避難訓練)
- () 7. 津波避難タワー見学
- () 8. 安政津波の碑見学
- () 9. 東日本大震災被災地からの報告
- () 10. 分科会報告
- () 11. 高校生サミットとして世界に向けて宣言をしたこと
- () 12. その他

具体的に記載してください: _____

(2) 事前学習を通して、自分の住んでいる地域の想定されている被害について、生徒の知識は深まりましたか？

- () 非常に深まった () ある程度深まった () あまり深まらなかった () 全く深まらなかった

(3) 事前学習を通して、自分の住んでいる地域の防災対策について、生徒の知識は深まりましたか？

- () 非常に深まった () ある程度深まった () あまり深まらなかった () 全く深まらなかった

(4) 他の地域・国の災害について、生徒の知識は深まりましたか？

- () 非常に深まった () ある程度深まった () あまり深まらなかった () 全く深まらなかった

- (5) 他の地域・国の防災対策について、生徒の知識は深まりましたか？
☐非常に深まった ☐ある程度深まった ☐あまり深まらなかった ☐全く深まらなかった
- (6) 生徒にとって、他の学校の発表やアクションプランから新たな発見や気づきがあったと思いますか？
☐大いにあった ☐ある程度あった ☐あまりなかった ☐全くなかった
- (7) 生徒は防災の重要性をより強く感じるようになりましたか？
☐とてもなった ☐ある程度なった ☐あまりならなかった ☐全くなかった
- (8) 他の学校・国の生徒との交流は、生徒にとって有益なものとなったと思いますか？
☐強く思う ☐ある程度思う ☐あまり思わない ☐全く思わない

【2. サミット後の活動について】

- (1) 生徒が発表したアクションプランは実施できそうですか？
☐3カ月以内に実施 ☐半年以内に実施 ☐1年以内に実施 ☐来年以降
- (2) 他の学校や国と協力して活動したいと思いますか？
☐強く思う ☐ある程度思う ☐あまり思わない ☐全く思わない
- (3) 学校に帰ってから、「世界津波の日高校生サミットin黒潮」の参加報告・発表を行いますか？
☐既に予定がある ☐予定はないが必ず行う ☐できればやりたい ☐行わない

【3. サミットの企画・運営について】

- (1) 事前の準備期間は、適切でしたか？
☐はい ☐いいえ
- (2) 事前に提供された資料は、十分でしたか？
☐はい ☐いいえ
- (3) 事前準備の中で、苦労したことや困ったことがあれば、記載してください。(記述式)

--

(4) 分科会の時間設定は、適切でしたか？

()もっと長い方が良い ()ちょうど良い ()もっと短い方が良い

(5) 分科会グループの人数は、適切でしたか？

()多い ()ちょうど良い ()少ない

(6) 分科会のテーマ・分野は、分かりやすかったですか？

()はい ()いいえ

(7) 分科会の進行は、スムーズでしたか？

()はい ()いいえ

【4. 自由記述】

今回のプログラムの企画・運営について、ご意見を賜れば幸いです。

This image shows a blank sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

[illegible]

アンケートへのご協力ありがとうございました。

**「世界津波の日」高校生サミット in 黒潮
実施後アンケート**

***Please fill in the blanks below in block letters in English.**

DATE: YY/MM/DD

Full name	
母国語表記	
Participant ID No.	
School name	
Country	

この度は、「『世界津波の日』高校生サミット in 黒潮」にご参加頂きありがとうございました。
本プログラムのアンケートへ協力をお願いします。
以下の質問の該当する回答に✓をご記入ください。

【1. 成果について】

(1) 最も有益であった活動は、何ですか。5つ選んでください。

- () 1. 発表のための事前学習
- () 2. OECD 東北スクール発表
- () 3. 分科会で発表をしたこと
- () 4. 分科会で他の学校の発表を聞いたこと
- () 5. 分科会でディスカッションしたこと
- () 6. フィールドワーク(高台避難訓練)
- () 7. 津波避難タワー見学
- () 8. 安政津波の碑見学
- () 9. 東日本大震災被災地からの報告
- () 10. 分科会報告
- () 11. 高校生サミットとして世界に向けて宣言をしたこと
- () 12. その他

具体的に記載してください: _____

(2) 事前学習を通して、自分の住んでいる地域の想定されている被害について知識は深まりましたか？

()非常に深まった ()ある程度深まった ()あまり深まらなかった ()全く深まらなかった

(3) 事前学習を通して、自分の住んでいる地域の防災対策について知識は深まりましたか？

()非常に深まった ()ある程度深まった ()あまり深まらなかった ()全く深まらなかった

(4) 他の地域・国の災害について、知識は深まりましたか？

()非常に深まった ()ある程度深まった ()あまり深まらなかった ()全く深まらなかった

(5) 他の地域・国の防災対策について、知識は深まりましたか？

☐非常に深まった ☐ある程度深まった ☐あまり深まらなかった ☐全く深まらなかった

(6) 他の学校の発表やアクションプランから新たな発見や気づきがありましたか？

☐大いにあった ☐ある程度あった ☐あまりなかった ☐全くなかった

(7) 防災の重要性をより強く感じるようになりましたか？

☐とてもなった ☐ある程度なった ☐あまりならなかった ☐全くならなかった

(8) 出会った他の学校の生徒と、メールアドレスや連絡先の交換はしましたか？

☐10人以上 ☐7人以上 ☐3人以上 ☐全くしなかった

【2. サミット後の活動について】

(1) もっと防災について学ぼうと思いますか？

☐強く思う ☐ある程度思う ☐あまり思わない ☐全く思わない

(2) あなた自身の家の備えを見直そうと思いますか？

☐強く思う ☐ある程度思う ☐あまり思わない ☐全く思わない

(3) あなたの住んでいる地域や学校で避難訓練はありますか？

☐ある ☐ない

(4) あなたの住んでいる地域や学校で避難訓練がある場合

→積極的に参加しようと思いますか？

☐強く思う ☐ある程度思う ☐あまり思わない ☐全く思わない

(5) あなたの住んでいる地域や学校で避難訓練がない場合

→避難訓練の実施を呼びかけようと思いますか？

☐強く思う ☐ある程度思う ☐あまり思わない ☐全く思わない

(6) 防災に関する啓発活動に参加しようと思いますか？

☐強く思う ☐ある程度思う ☐あまり思わない ☐全く思わない

(7) 被災地の復興活動に参加したいと思いますか？

☐強く思う ☐ある程度思う ☐あまり思わない ☐全く思わない

(8) 発表したアクションプランは実施できそうですか？

☐3カ月以内に実施 ☐半年以内に実施 ☐1年以内に実施 ☐来年以降

(9) 他の学校や国と協力して活動したいと思いますか？

()強く思う ()ある程度思う ()あまり思わない ()全く思わない

(10) 他の学校や国と協力して活動したいと思う場合

→どのような活動をしたいと考えていますか？

具体的に記載してください: _____

(11) 学校に帰ってから、「世界津波の日高校生サミットin黒潮」の参加報告・発表を行いますか？

()既に予定がある ()予定はないが必ず行う ()できればやりたい ()行わない

【3. サミットの企画・運営について】

(1) 事前の準備期間は、適切でしたか？

()はい ()いいえ

(2) 事前に提供された資料は、十分でしたか？

()はい ()いいえ

(3) 分科会の時間設定は、適切でしたか？

()もっと長い方が良い ()ちょうど良い ()もっと短い方が良い

(4) 分科会グループの人数は、適切でしたか？

()多い ()ちょうど良い ()少ない

(5) 分科会のテーマ・分野は、分かりやすかったですか？

()はい ()いいえ

(6) 分科会の進行は、スムーズでしたか？

()はい ()いいえ

【4. 自由記述】

今回のプログラムを通じて、最も印象に残ったこと、学校に戻ったら、伝えたいこと、実施したいこと等自由に記入してください。

(記載いただいた内容は、氏名を公表しない形で、主催・共催・後援者の HP、報告書等に掲載されることがあります。)

[illegible]

アンケートへのご協力ありがとうございました。

対象者総数440名、有効回答数415名、総回答率94.3%

回答数内訳：国内生徒98名/110名中、国内引率38名/46名中、海外生徒241名/246名中、海外引率38名/38名中

グループ名・ 学校名・ 引率者/生徒		国内・海外別計				合計					
		国内 全グループ計		海外 全グループ計		国内・海外 合計 (引率・生徒別)		総計			
		引率	生徒	引率	生徒	引率	生徒	引率・ 生徒計	順位・%	%	
1 成果について	最も有益であった活動は、何ですか。5つ選んでください。										
	1. 発表のための事前学習	27	45	18	63	45	108	153	8位	34.8%	
	2. OECD東北スクール発表	3	5	6	68	9	73	82	10位	18.6%	
	3. 分科会で発表をしたこと	37	68	13	110	50	178	228	4位	51.8%	
	4. 分科会で他の学校の発表を聞いたこと	28	76	28	118	56	194	250	3位	58.8%	
	5. 分科会でディスカッションしたこと	27	69	22	146	49	215	264	1位	60.0%	
	6. 高台避難訓練	9	38	29	175	38	213	251	2位	57.0%	
	7. 津波避難タワー見学	4	17	11	113	15	130	145	9位	33.0%	
	8. 安政津波の碑見学	1	7	6	53	7	60	67	11位	15.2%	
	9. 東日本大震災被災地からの報告	13	45	21	135	34	180	214	5位	48.6%	
	10. 分科会報告	15	44	12	117	27	161	188	7位	42.7%	
	11. 高校生サミットとして世界に向けて宣言をした	14	41	21	136	35	177	212	6位	48.2%	
	12. その他 具体的に記載してください	4	13	1	7	5	20	25	12位	5.7%	
	*「1-(1)-12」シートに記載										
	事前学習を通して、自分の住んでいる地域の想定されている被害について、(生徒の)知識は深まりましたか？										
	(2)	非常に深まった	23	52	29	155	52	207	259	63.0%	96.1%
		ある程度深まった	14	41	7	74	21	115	136	33.1%	
		あまり深まらなかった	0	3	1	12	1	15	16	3.9%	
		全く深まらなかった	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	事前学習を通して、自分の住んでいる地域の防災対策について(生徒の)知識は深まりましたか？										
	(3)	非常に深まった	23	57	32	154	55	211	266	65.0%	97.6%
		ある程度深まった	13	36	3	81	16	117	133	32.5%	
		あまり深まらなかった	0	3	2	5	2	8	10	2.4%	
		全く深まらなかった	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	他の地域・国の災害について、(生徒の)知識は深まりましたか？										
(4)	非常に深まった	15	52	28	160	43	212	255	62.2%	97.3%	
	ある程度深まった	19	43	9	73	28	116	144	35.1%		
	あまり深まらなかった	4	1	0	6	4	7	11	2.7%		
	全く深まらなかった	0	0	0	0	0	0	0	0.0%		
他の地域・国の防災対策について、(生徒の)知識は深まりましたか？											
(5)	非常に深まった	11	45	23	146	34	191	225	54.9%	95.6%	
	ある程度深まった	20	49	13	85	33	134	167	40.7%		
	あまり深まらなかった	7	2	1	8	8	10	18	4.4%		
	全く深まらなかった	0	0	0	0	0	0	0	0.0%		
他の学校の発表やアクションプランから(生徒の)新たな発見や気づきがありましたか？											
(6)	大いにあった	21	61	29	158	50	219	269	65.6%	96.3%	
	ある程度あった	14	32	8	72	22	104	126	30.7%		
	あまりなかった	3	3	0	9	3	12	15	3.7%		
	全くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0.0%		
防災の重要性を(生徒が)より強く感じるようになりましたか？											
(7)	とてもなった	30	87	36	211	66	298	364	89.7%	99.3%	
	ある程度なった	6	7	1	25	7	32	39	9.6%		
	あまりならなかった	1	1	0	1	1	2	3	0.7%		
	全くならなかった	0	0	0	0	0	0	0	0.0%		
他の学校・国の生徒との交流は、生徒にとって有益なものとなったと思いますか？											
(8)	強く思う	35		37		72		72	96.0%	100.0%	
	ある程度思う	2		1		3		3	4.0%		
	あまり思わない	0		0		0		0	0.0%		
	全く思わない	0		0		0		0	0.0%		
出会った他の学校の生徒と、メールアドレスや連絡先の交換はしましたか？											
(9)	10人以上		44		119		163	163	48.8%	69.5%	
	7人以上		16		53		69	69	20.7%		
	3人以上		28		53		81	81	24.3%		
	全くしなかった		10		11		21	21	6.3%		
もっと防災について学ぼうと思いますか？											
(1)	強く思う		69		210		279	279	83.3%	99.4%	
	ある程度思う		25		29		54	54	16.1%		
	あまり思わない		2		0		2	2	0.6%		
	全く思わない		0		0		0	0	0.0%		
あなた自身の家の備えを見直そうと思いますか？											
(2)	強く思う		49		159		208	208	62.3%	97.3%	
	ある程度思う		40		77		117	117	35.0%		
	あまり思わない		6		2		8	8	2.4%		
	全く思わない		1		0		1	1	0.3%		
あなたの住んでいる地域や学校で避難訓練はありますか？											
(3)	ある		92		180		272	272	46.4%	46.4%	
	ない		3		58		61	61	16.2%	16.2%	

対象者総数440名、有効回答数415名、総回答率94.3%

回答数内訳：国内生徒98名/110名中、国内引率38名/46名中、海外生徒241名/246名中、海外引率38名/38名中

グループ名・ 学校名・ 引率者/生徒		国内・海外別計				合計			
		国内 全グループ計		海外 全グループ計		国内・海外 合計 (引率・生徒別)		総計	
		引率	生徒	引率	生徒	引率	生徒	引率・ 生徒計	順位・% %
2 サミット後の活動について	あなたの住んでいる地域や学校で避難訓練がある場合、積極的に参加しようと思いますか？								
	(4)		59		194		253	253	78.8%
			28		35		63	63	19.6%
			3		1		4	4	1.2%
			1		0		1	1	0.3%
	あなたの住んでいる地域や学校で避難訓練がない場合、避難訓練の実施を呼びかけようと思いますか？								
	(5)		36		139		175	175	60.6%
			30		63		93	93	32.2%
			10		9		19	19	6.6%
			1		1		2	2	0.7%
	防災に関する啓発活動に参加しようと思いますか？								
	(6)		42		192		234	234	70.5%
			45		43		88	88	26.5%
			8		1		9	9	2.7%
			1		0		1	1	0.3%
	被災地の復興活動に参加したいと思いますか？								
	(7)		68		184		252	252	75.4%
			25		51		76	76	22.8%
			2		3		5	5	1.5%
			1		0		1	1	0.3%
	発表したアクションプランは実施できそうですか？								
	(8)		8		60		68	93	23.2%
			8		46		54	86	21.4%
			13		68		81	116	28.9%
			7		61		68	106	26.4%
	他の学校や国と協力して活動したいと思いますか？								
	(9)		20		194		214	308	75.9%
			16		30		46	77	19.0%
			1		14		15	20	4.9%
			0		0		0	1	0.2%
	他の学校や国と協力して活動したいと思う場合、どのような活動をしたいと考えていますか？								
	(10)	※「2-(10)」シートに記載							
	学校に帰ってから、「世界津波の日」高校生サミットin黒潮の参加報告・発表を行いますか？								
	(11)		24		92		116	171	42.0%
			5		88		93	116	28.5%
			6		58		64	106	26.0%
			2		1		3	14	3.4%
3 サミットの企画・運営について	事前の準備期間は、適切でしたか？								
	(1)		33		224		257	372	92.3%
			4		9		13	31	7.7%
	事前に提供された資料は、十分でしたか？								
	(2)		36		228		264	382	94.3%
			1		8		9	23	5.7%
	事前準備の中で、苦労したことや困ったことがあれば、記載してください。(記述式)								
	(3)	※「3-(3)」シートに記載							
	分科会の時間設定は、適切でしたか？								
	(4)		16		55		71	119	29.2%
			22		177		199	278	68.1%
			0		5		5	11	2.7%
	分科会グループの人数は、適切でしたか？								
	(5)		10		26		36	51	12.7%
			26		195		221	335	83.3%
			1		12		13	16	4.0%
	分科会のテーマ・分野は、分かりやすかったですか？								
	(6)		29		231		260	376	92.2%
			8		7		15	32	7.8%
	分科会の進行は、スムーズでしたか？								
	(7)		26		218		244	359	88.9%
			12		16		28	45	11.1%

「世界津波の日」高校生サミット in 黒潮
事後アンケート(引率教員)【4.自由記述】

問：「今回のプログラムの企画・運営について、ご意見を賜れば幸いです。」

I 高知県内高校引率者

1. 主催、運営、参加者、全ての人が初めての経験でありながら、あれだけ大規模な国際的イベントを無事に終えることができ、成果としては大成功であったのではないのでしょうか。私どもの生徒たちは、防災に関する取り組み内容については多少の自信を持ってはいましたが、英語力については全く自信がなく、国内外の高校生と英語で交流することができるかどうか、サミットが始まるまでは不安を抱えていました。しかし、いざ会場で各国の高校生と向き合うと、皆が相手に心を開き、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢が見られました。本校生徒もそうした雰囲気助けられ、時間が経つにつれて硬かった表情も柔らかくなり、楽しく過ごしている様子が伺えるようになりました。そして、高校生という年代の彼らにとって、あれだけの様々な国や地域の高校生と、英語を交えて 2 日間交流できたことは何よりの経験であり、かけがえのない財産になったことと思います。また、私たち教員にとっても大変貴重で多くの学びがあった機会でもありました。関係の皆様にも心より感謝申し上げます。
2. 突然学校長からサミットの話があり、年度途中のふってわいたことだったので、途中まで何をどう発表すればいいかわかりませんでした。事前学習会でもさまざまな情報を得て、結果的には本校で取り組むべき防災教育の在り方を考える機会となり本当によかったと思います。決してやらされているのではなく、自分たちでいろいろ考えてサミットのプレゼンテーションまでもっていったのは、来さんをはじめ、学校安全対策課の先生方や運営に関わられた全ての方のご尽力の賜物だと深く感謝をしています。高等学校課をはじめとする英語の先生方のサポートも本当に心強かったです。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございます。
3. サミットを終えた感想としては、とても貴重な経験をさせていただいたと思う。4 月に話を聞いたときはサミットがどのような規模で行われるのか全くイメージできなかったが、想像していた以上のイベントで、生徒も自分もとても驚いた。日本だけでなく、他の国々の高校生と関わることができ、世界各地で行われている取り組みについて知ることができた。今回のサミットへの準備を通して、本校の防災意識も高まったと思う。教員同士で防災について話し合う機会も増え、サミット当日に向けては多くの教員の協力を得ることが出来た。今回は生徒会の一部

の生徒が参加したが、「ものづくり」を授業や部活動の一部で行うことで他の生徒も活動に参加することができ、防災意識が高まったと思う。今回のサミットをキッカケに、改めて防災について考えることができた。そういう意味でも、本サミットは大変意義深いものだったと感じている。また、サミットへの準備を通して、本校の防災活動の課題も浮き彫りになった。それは地域との連携である。それに気付いたのは、第2回学習会のときである。そのときの学習会では、東日本大震災当時岩手県釜石東中学校に在籍しており、震災を経験した大学生2人から貴重な話を聞くことが出来た。その話の中で、震災前から地域と連携して避難訓練などの防災活動を行っていたこと、そして震災当日、地震発生後に津波から逃げるために避難していく中学生の姿を見て、地域の小学生や大人たちがいっしょに避難したことで被害者を少なくすることができたことを聞いた。本校でも避難所になったときに向けて、昨年度までもさまざまな取り組みを行ってきたが、地域との連携については弱いように感じる。今後は地域とつながっていくことも防災・減災にとって重要であると思う。これから生徒とともに考えていきたい。今回のサミットで気になった点としては、サミット参加校の防災意識の違いについてである。学習会やサミット当日での発表や活動を見ていて、防災について話し合うことではなく、英語を話すことが目的で参加している参加校もあった。防災への取り組みについても温度差があったように感じる。その点については非常に残念であった。私は今回のサミットは大変意義深いものであったと思う。しかしこれをキッカケに、継続的な防災活動に取り組んでいかなければならないと思う。将来必ず南海大地震は来るということを踏まえて、学校単位はもちろん、高知県全体としても防災・減災への取り組みをしていかなければならないと思う。特定の学校だけではなく、高知県のすべての学校で適切な対策が取られ、生徒や地域住民の被害をできるだけ少なくすることが今後の高等学校が果たしていくべき役割ではないかと思う。最後になりましたが、今回のサミットの計画・運営をしていただいた、たくさんの方々に感謝しています。ありがとうございました。

4. 高知県の高校の中でも、防災意識の温度差があり、積極的に防災に取り組んでいる学校と、サミットの為に取り組んでいる学校との間に温度差がかなりあり、英語学習に力を入れている学校が代表として出てきたのは問題が多かったと思われる。世界各国の防災教育についても、今回のサミットで、各国にかなりの温度差があることは理解できました。運営面ではことで大変だったとは思いますが、津波の日という企画であれば、もう少し防災・減災に関する知識・取り組みが認識できる会であってほしかったところです。
5. 当校は、分科会 B2 グループの司会も担当させていただいた。高1生で司会も不慣れであったが、英語のコーディネイターの先生が厳しい人で、司会を助けるどころか、助言もくれなかった。英語が話せて当たり前という前提があったと思うが、生徒はパニックになって思うような議事進行が出来なかった。もう少し配慮いただきたかった。関係の方々に最初から最後までお世話になりました。有難うございました。

Ⅱ 県外国内高校引率者

1. まずは大変貴重かつ有意義な学びの機会を頂戴いたしましたことに感謝申し上げます。30か国から高校生を招いて行う一大イベントを立ち上げるためには多大なご苦労をされたことと存じます。事務局の皆様にご心より御礼申し上げます。同サミットが今後ふたたび日本で開催されることを祈りつつ、その実現に向けていくつか私見を述べさせていただきます。今回は参加校単独でアクションプランを練り上げましたが、たとえば日本国内でも異なる地域間の学校、または国外と国内の学校同士が事前・事後にも連携し合い、国や地域をまたいだアクションプランを立ち上げ、それを実行に移していく、というのも新たな展開が期待されるのではないかと思います。分科会のカテゴリにつきましては適切な設定であったと思いますが、より議題を焦点化すると、議論が噛み合うのではないかと感じました。また、スケジュール上難しいと思うのですが、他の分科会の議論を傍聴する時間があってもよい刺激となりそうだと感じました。黒潮町で行う、というのは大変意義深い設定であったと思います。それだけに、たとえば民宿などに分宿するなど、参加者と住民の方がより深く交流する場面があれば、ホストとゲスト双方にとって、一層印象深いものになるのではないかと思います。
2. 限られた時間の中できちんと議論できていたのが良かったと思います。本校生徒は英語があまり得意ではなかったのが、次回に向けて英語力を高めて参加したいと思います。今後ともよろしくお願いします。
3. 大変ご丁寧に対応いただき、ありがたかったです。生徒にとって大変貴重な経験になったと思います。今後ともよろしくお願いいたします。
4. 大規模な今回のようなプログラムの企画・運営、本当にお疲れ様でした。地域と一体となった今回の高校生サミットは、大成功だったと思います。ただ、せっかく国内外から多数の引率者(教員)が集まったのですから、もう少し交流の機会が得られると良かったと思います。とは言うものの、多くの国内の引率者が、国内の引率者で固まっていたのも事実ですが。
5. 分科会のためのブリーフィングにおいて、司会校の子やスタッフの方の声が、向かい側に座っている人には全く聞こえず、知らない間に次に進んでしまっていた。どうしても体育館だと声がかもってしまうので、ブリーフィングにおいても仕切り板があると良かったかも知れません。また、バスでの移動においても、マイクを使わずに今後の指示をされていたので、後ろの席は全く聞こえていませんでした。大型バスなので、配慮をお願いします。宿泊所は、せっかく海外の高校生も来ていたので、全員が同じ場所、もしくはもっと近くに宿泊させて、交流の時

間をもっと取ってあげてもよかったのかなと感じました。今回の日程でも、少なからず交流はしていましたが、日程の進行もあるため、満足に交流できていないのではないのでしょうか。

6. 時間設定が過密すぎます。本校は朝 10 時台に出発して、会場に着いたのが16時半頃でしたが、そこから休憩無く19時過ぎまで活動があったので、1日目で生徒がかなりバテていました。「空いた時間に休憩を」と言われても、スケジュール通りに進行していなかったのでトイレに行くタイミングすらつかめませんでした。指示が全く聞こえませんでした。特に分科会会場は広い上にたくさんの方がいます。マイク、もしくは拡声器などを使ってくださいとありがたいです。・1日目、グループごとの自己紹介やゲームをするときに、時間がおしていた関係もあったと思いますが、本校の生徒がまだ発表をしているのに、スタッフの方が缶バッジの入った缶のガラを回収し始めました。せっかくの発表なので、少しお気遣いいただけると有り難かったです。上記3点、気になることがありましたが、全体的に非常にためになる会であったと思います。本校は国際科がある学校ではないので、外国の方と討論する機会はないに等しく、それ故に新しい発見や成長がたくさんあったように感じました。また、分科会では高校生主体で大人は通訳さんを含め、ほぼ見守っているのみというのもとても良かったです。ぜひまた開催していただきたと思います。
7. 大変有意義なサミットでした。高校 1 年生でチャレンジした本校生徒たちの成長にも大きく繋がったと感じています。また、本校については参加者の変動もありましたが、丁寧なご対応を頂き助かりました。運営に関しては、2日間の活動を通して、分科会司会校のメンバーに対してもう少しフォローがあってもよかったのかな、と感じております。ディスカッションや決議の際に、文化によって「これでよし」とする基準も違いますし、後ろから拝見している者にとっては「え、これでいくの？」と思ったシーンは何度かありました。しかし、こういう差などを感じるのもひとつの醍醐味ではあるので難しいところですが、分科会での発表の際には、担当の方が「各校発表は8分で終了」ということを最重要視されていたようで、8分になった時点で拍手をし無理矢理打ち切っておられました。せめて「まとめに入ってください」などの声掛けで少し時間を延長してでも、最後までさせてあげたほうが、発表する側にも聞く側にも有益でないかと考えます。また、発表後のディスカッションでは、はじめに各校内での数分間のブレインストーミング・話し合いの時間があれば、より実りあるディスカッションになるかもしれない、と感じました。初日のアイスブレイキングの時には、各校ひとつ、事前にアクティビティを準備しておくなどがあればおもしろいかもしれません。報道陣に関しては、本校の女子生徒が高知新聞社の記者の方に、引率教員の許可なく取材をされていました。生徒も断れず、写真まで撮影し、移動の時にも再び取材をされて少し怖がっておりました。報道陣への徹底に関して、見直す必要があるのではないのでしょうか。以上、ご参考になりましたら幸いです。ありがとうございました。

8. 本校が参加した分科会を担当してくださった方が、一生懸命に運営されていましたが、発表時間の 8 分きっかりに終わることを非常に重要視しており、国内外から集まった高校生の発表が最後まで行かず、途中で打ち切ってしまっていたことに憤りを感じました。さらに、その後のディスカッション時間が非常に長く、意見もまばらで行き詰まり感があったので、1～2 分延長してでも、最後まで発表させてあげたほうが、高校生の自信や理解に繋がると思いました。また、高校生に司会やタイムキーパー等を任せていましたが、担当者の方はご自分のやり方や考えがあるので、高校生に任せるというよりも、ご自分のやり方を高校生にさせているというように見えました。本校の生徒が新聞取材を受けましたが、大会の規約を守ってられない新聞記者がいました。高知新聞社の方から本校生徒は質問を受けましたが、事前に教員への承諾なしに質問され、本校の生徒は名前や学校名等の個人情報を聞かれ、少し驚き、怖がっておりました。最後に、参加高校生は会議の最中だけでなく、宿泊施設も同じにしていただければと思います。高校生という多感な時期、特にこのような大きな会議で今後接することができるかわからない文化から来られた方々と接することは、高校生がグローバルリーダーと成り行くために必要な国際性等を学び、習得する非常に素晴らしい機会になるかと思えます。同じ国同士で固まることも気楽でいいのかもしれませんが、2 泊 3 日と限られた日程の中で、文化の異なる方と同室になったり、宿泊先でも交流できるというのは非常に有益かと考えます。次回の参考にしていただければ幸いに思います。
9. 隔年でもいいので、継続的な開催を望む。国内外共に、参加人数は各校 2～4 人程度で、全員が発表もしくはディスカッションに参加する形式が好ましいと思った。発表後に、その都度時間を決めて質疑応答をさせた方が話が前後せずすみ、その後のディスカッションの内容も深められるのではないかと。町、県をあげての準備、運営がされており、歓迎の気持ちが伝わってきた。反面、「高校生サミット」ということで、フィールドワークや見学等も地元の高校生がガイドをする等、より高校生を中心とした企画運営であれば更に盛り上がるのではないかと感じた。
10. 「津波」という 1 つのテーマを絞って、国内外の高校生たちが 2 日間じっくりと話し合い、向かい合えたことは非常によい経験となった。それぞれの災害経験を知ることにより、より一層意識が高まったと感じた。この企画は東日本大震災の津波被害にあった地域の代表として、発信できたことは非常によい機会を与えてもらった。分科会のテーマも、「知り、備え、復興」と災害のことだけではなくその前後を入れたことによってさらに危機意識の高まりを感じることができた。運営も、スムーズで事前準備の丁寧さが伝わってきた。分科会のレポートも、英文にしてくださり、手間を惜しんで作業してくださったこと、本当にありがたいと感じた。これを学校内でやることは時間的にきつかったし、途方にくれていると思う。このような貴重な体験を生徒にさせることができ、感謝している。ありがとうございました。

11. 担当者様、本当にお疲れ様でした。これが高校生にとっての「始まり」だと感じています。
12. 期間中、黒潮町あげて真心のこもった歓迎していただき、たいへんうれしく、また感動しました。到着時の体育館前から、帰路の列車に乗るまで、町長さんはじめ大勢の町民の皆様が駆けつけてくれたことが深く心に残っています。ありがとうございました。全体会を始め、避難訓練、フェアウエルパーティー等すばらしい企画で、生徒たちもかなり成長させていただいたと思います。貴重な体験をさせていただきましてありがとうございました。あえて苦言を申しあげるなら、私の班の分科会のディスカッション時、意見が出ずに空白の時間が結構続きました。司会の高校生、コーディネーターの方もかなりご苦労されていましたが、このあたりが課題ではなかったかなと思います。英語でプレゼンはできますが、その後議論を深めていくためには、司会者、コーディネーターのいろいろな場面を想定した綿密な打ち合わせが必要だと思いますし、残念ながら、即座に論議を深めていく力は、我々大人が考えるほど、高校生に期待することは難しいようです。対策としては、事前に各校のプレゼン資料を配布し、予め質問や課題を考えておく時間を確保することもよろしいかと思います。また、高校生にとっては日程も少々きつかったかとも思います。このサミットを通して、生徒たちが学んだことはとても大きなもので、彼らの様子を見てみると、近い将来、国同士が対立して紛争になるようなことはなく、課題を共有して、市民的なレベルで解決していく流れがきっと確立されていくであろうということを確認することができました。黒潮町にとってもおおきなイベントでしたし、日本や世界にとってもエポックメイキング的な大きなイベントであったと思います。私共の日高高校でも3年前に「アジア高校生フォーラム」を開催いたしました。準備段階から終了後のまとめの段階までスタッフの仕事量は予想以上にたいへんなものでした。大会運営の方々のご苦労は筆舌に尽くしがたいものだったとおもいます。特に大会前は皆様、寝る時間も削っての仕事だったと思います。ほんとうにありがとうございました。今後も生徒を連れて、また黒潮町を訪問したいと思っています。
13. まずは、お世話になり、ありがとうございました。そして無事成功しましたことをお祝い申し上げます。高校生には過剰と思えるほど立派な催し物で驚いております。海外からのゲストを招待していますし、各方面からの公的な意味合いもあり、ある程度豪華なのは致し方ないことなのだと思いますが、モノ、サービスともに分不相応に立派で感謝するやら、戸惑うやら、随分と費用も時間もかかったのだらうと思うとそれを負担した方々に申し訳なく思います。企画・運営ともたいへん立派で行き届いており、随分と楽をさせていただきました。お世話になりました。今回のプログラムの中心の活動となった分科会は、議長の生徒さんがたいへん優秀で滞りなく進行した反面、人数が多く活発な議論を行うのは難しかったように思えます。英語が第一言語の生徒が少なかったことも議論が活発にならなかった理由かもしれませんが、時間があまりないこともプレッシャーとなり、さっさとまとめて終わってしまったのは残念でした。一方、各校、各国からの発表はたいへん興味深く勉強になりました。避難訓練や避難

タワー見学のフィールドスタディはお天気にも恵まれよい気分転換になりましたし、生徒たちは、実際に避難する場合はあの高低差を逃げなければいけないことの大変さや、あの程度の人数でも結構混雑するのに人が殺到したらどうなるのだろう、など実際にやってみないとわからないことを実感していたようです。宿泊は幡多青少年の家にお世話になりましたが、キャンプとは異なり夜遅く活動しましたので、入浴がかなりおそくなり、たいへんでした。食事や輸送は行き届いており、入浴以外は特に問題を感じませんでした。8人部屋ということで、同部屋の生徒と仲良くなれるか心配していた本校の生徒も2晩を楽しく過ごしたようです。中にはほとんど眠らなかった生徒や騒いで迷惑をかけていた生徒もいたようですし、男女の部屋の行き来などもあったようですが、貸し切りの状態なのであれば、部屋は寝る場所、おしゃべりやゲームをしたい生徒はロビーや研修室を使うなどの工夫があっても良かったように思えます。あれだけ混合の集団になると教員も就寝指導などはかなりやりにくいです。生活指導についての教員だけのミーティングを初日に持っても良かったかもしれません。最後に地元との交流ですが、お迎えのプラカードを掲げて下さったり、駅まで雨の中お見送りして頂いたり、本当にお世話になりました。ただ、お世話になりっぱなしで何もお返しも貢献もできなかったことが心苦しいです。海外ゲストと国内参加生徒を数名ごとのグループにしてお宅訪問して防災や地元のお話を聞かせていただく、思い切ってホームステイする、など今後につながる交流ができればよかったとも思います。せっかく黒潮町と言う自然の豊かな素晴らしい町を訪れ滞在したのに、産物も、名物も知らないまま帰ってしまうのはもったいないと思いました。

14. とても貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。英語でのやり取りといっても各国ごとに英語になまりがあり、生徒たちは日常の授業等では得られない経験をすることができました。今回のように複数国の生徒が集まって議論するような機会がなければ、このような経験をなかなかすることができず、語学力に加えたコミュニケーション能力の必要性を認識できました。各プログラムがうまく計画されていたので、よい流れでコミュニケーションをとれるようになりました。ありがとうございました。また、地元の黒潮町の皆様方の歓迎を、ありがたく思いました。くれぐれもよろしくお伝えいただければ幸いです。
15. 大会関係者の皆様には、心から感謝いたします。生徒も教員も忘れることのできない、一生心に残る研修の機会になりました。大会の趣旨に沿った成果が上がっただけでなく思わぬ教育的成果も、全ての参加者にもたらされたにちがいありません。私の場合、中国の(海南島)の生徒が日本をとて気に入り、高知を出発するときの写真を送ってくれました。この写真にあるように雨の中、老いも若きも町の人々が大きく手を振っている姿は、きっと帰国後、中国の人々に広まり、中国の人々に日本のおもてなしの心が直接伝わるのだと思います。

16. 運営にあたられた職員の方々、大変お世話になりました。おかげさまで生徒たちにとっても教員である私にとっても得がたい経験になりました。特に外国の学生たちとの交流は生徒たちの大きな自信につながりました。また、被災地域に住む私たちにとって、このような機会でも、他県の方々や外国の方々に話す場を設けていただいたことはとても意義のあることでした。朝早くから夜遅くまで誠意あふれるご対応に頭の下がる思いでした。本当にありがとうございました。
17. 日本の高校生(と引率教員)は2段ベッド8人部屋での合宿であった。本当は海外の生徒と一緒に泊まることができればさらによかったが、30分交代での大浴場使用や豚肉を使った食事提供など、文化的にも宗教的にも無理だったのは理解できる。それでも他県の生徒と相部屋だったので、いろいろ情報交換・交流ができて、参加生徒は面白かったようである(引率教員も同様)。本校ではずっと前に集団宿泊研修が廃止されていたこともあり、生徒にとっては新鮮な、引率者にとっては懐かしい経験であった。サミットの趣旨等は理解していたが、それでも予想外の規模の大会で驚くとともに、思い切って参加して本当に良かったと思う。他国の発表を聞く機会は、SSH 生徒研究発表会等で多少はあるが、一つの課題について直接小規模の分科会で発表し合い、意見交換するような機会は極めて珍しい。貴重な経験をすることができたと思う。それから幡多青少年の家では他校の先生方と同室となり、各校の状況や様々な取り組みについて意見交換することができた。今回の参加校は SSH または SGH 指定校がほとんどで、そうした点でも得ることが多かった。
18. スムーズな運営ありがとうございました。多くの方々のご苦労の上にサミットの成功があったと思います。他国の同年代の生徒と関わることができ、本校生徒にとっても実り多い経験となったと思います。また、事前準備や分科会の発表等を通して個人的にも得るものの大きい機会となりました。ありがとうございました。
19. 私どもの不勉強か、関西の学校であるから情報が無かったのか、事前に「サミット」がどのような規模や趣旨でおこなわれるものか、きっちり把握できていませんでした。数日前からの報道ぶりと、それまでの準備資料を見てやっと事態が飲み込めたくらいです。生徒たちもあまりわかっていなかったのも、高知県や黒潮町の方々にたいへんなおもてなしをさせていただいても、恐縮するばかりで失礼ではなかったかと思います。終わってみて、このような大きな国際会議に参加させていただき、本当に光栄に思っています。プログラムについては、二日目非常に盛りだくさんで、特に午後の総会は休憩もほとんどなく進められたので、少し生徒は疲れたのではないかと思います。また生徒同士が交流する機会がもっとあっても良いかと思いますが、会議の趣旨や目的からすると、二日間の日程ではこういうものなのだと感じました。最後に、高知県や黒潮町みなさんにたいへん温かいおもてなしをいただき、有難うございました。生徒たちもすごく心にかけていたと思います。本当に貴重な機会をいただき有難うご

ざいました。また、JICEの長山様、藤井様、とさでんトラベルの安岡様にもきめ細かく連絡をいただき、本当に感謝しております。こういうことに慣れていない私どもはたいへん勉強になりました。

20. 事前の情報がかなり多いので、それを整理するのに苦労しました。ただ、必要な情報だったと思いますので、資料に最初から日付と通し番号がついていると助かります。(例)「20160701 発行 資料1」など。現地での運営は大規模になればなるほど大変なことだったと思われますが、特にクループについていたコーディネーターの方が、全体の流れや分科会の内容について、理解が浅いと感じました。引率者である私が指示を求められるような部分も多く、それは引率者の役割なのだろうか？と疑問に思いました。「生徒や引率の先生方がしっかりされていたので、ぼーっとしていてもよく、楽だった」とコーディネーターの方に言われたのですが、それはコーディネーターの業務としてどうなのだろう？と思いました。学校の名前すらきちんと正確に言ってもらえないことが多く、それも残念に思いました。日本人の生徒の宿舎は、もう少し環境的に配慮があってもよかったのではないかと思います。幡多青少年の家がダメだということではないのですが、生徒も引率者もそれなりに緊張して疲れている中で、風呂・洗面・リラックスできるスペースなどの確保が十分でないと感じました。現地で特に総会時や分科会時に写真が撮れなかったので、早めに参加者に共有できる環境で公開してもらえると助かります。よろしくお願いします。
21. 多くの方に関わっていただき感謝をしております。特に黒潮町をあげての歓迎に心を打たれました。生徒に発表の場をと考えての参加でしたが、自分たちの町の防災について考えることができるとともに、全く知る機会のなかった他国の高校生徒の交流ができたことは生徒に大きな自信を持たせる機会になったと思っています。今回参加させていただいたことで生徒の視野が大きく広がったことは何よりの収穫でした。特にコーディネーターの方々の存在は本当に大きかったと思います。いろいろとありがとうございました。
22. 日本政府がかなり力を入れてくださったことが一番ですが、それ以外では1つ目に同年代の集まりであったこと、2つ目に海外の高校生に加えて日本の各都道府県の高校生もいたこと、この2点もとても大きかったと思います。以上の理由により、当校より参加させていただいた生徒はかなり刺激を受けたようです。これからの日本、これからの日本の英語教育を考えるにあたり、このような催しを無理かもしれませんが毎年もしくは3年に1度程度で行っていただけるとありがたいと思いました。私自身も非常に良い勉強になりました。ありがとうございました。
23. 非常に有意義なプログラムだったと思います。防災教育に対してどうしても受け身になりがちな高校生(特に大きな自然災害を経験していない)が主体的・積極的に防災に対して学習を

進めていました。また、国内外に多くの友人を作ることができ、生徒がこれからアクションプラン等の取り組みをするにあたり、共に頑張る仲間を得たことは大きな財産となった。国際交流という視点では、自分たちの英語力不足を痛感し、これからの英語学習への大きなモチベーションに繋がった。青少年の家に宿泊したが、電源の確保がほとんど出来ず、携帯の充電が十分に行えないなど、生徒を引率している立場として、緊急時の連絡等に対しての不安が大きかった。それを見越して事前にテーブルタップ等を準備していけば良かったと思った。

24. 当初は、東日本大震災を経験した被災高校としての取り組みと、復興に向けての学校あるいは行政の取り組みを紹介することが、本校に課された使命だと考えていたが、サミットに参加して、安政南海大地震の逸話や南海トラフによる東海地震への備えなどより知見を広めることができた。各校の生徒は、皆何かを学んで帰ろうという高い意欲を持ってサミットに臨んでいる様子がうかがえ、中でも議長校を務めた大方高校をはじめ高知県内の各高校生がサミットを牽引しているように感じた。高知県や黒潮町の職員の方々や、指導に当たった高知県の先生方が、今回のサミットの成功に向けてどれほど時間をかけて準備をしてきたかを想像すると頭が下がる思いである。また、高台避難訓練や総会の時に、多くの地元住民の方々が参加していることを知り、行政と住民が、互いに協力してサミットを成功させようとする両者の良好な関係を感じることができた。世界津波の日制定を契機として、今回のサミットを実施したわけですが防災への取り組みは永続的になされるべきことであり、サミット自体も継続的に実施し津波をはじめとした自然災害への備えをメッセージとして発信し続けるべきと考えます。気の遠くなるような準備期間やエネルギーを費やしてサミットを開催したことは十分承知しておりますが、ぜひ継続的なサミット開催を望みます。
25. ○分科会について①会場について★小会議室のようなところで落ち着いて議論できればよかったと思います。★事前に分科会の進行について「英語が苦手な生徒のために教員がサポートする」という指示がありましたが、教員席が設けられていなかったため、生徒のサポートができませんでした。②進行について★各学校発表後に質疑応答の時間を設定したほうがよいと思いました。すべての発表を聞いた後でいきなり討議するのは難しいと感じました。★各コーディネーターからの指示が細かすぎて、司会の生徒が自由に運営できなかった分科会もあったそうです。サミットの趣旨からいってもある程度、生徒の自主性にまかせたらよかったのだと思いました。③宿舎について★日本と海外の生徒が同じ宿舎のほうが交流も深まったと思いました。★教員(女性引率2部屋目22号室)の入浴時間が、夜中の12時を過ぎ、結局入れませんでした。せめて1日目と2日目の部屋の順番を入れ替えてほしかったです。④その他 黒潮町の住民の方々がメッセージやポンポンを手を持ってお出迎えやお見送りに来てくださり、とても温かい気持ちになりました。特に、帰りのバスが通る道路脇で手を振ってくださっていたのに感激しました。

26. 本校のような田舎の農業高校でも世界を感じることができるサミットに参加させて頂けたことをとても有難く感じました。私だけでなく、生徒たちも世界や日本のトップレベルの高校との差を肌で感じる事ができ、今後更に学習を深化させていく必要があることを強く認識しました。今大会の開催が初ということもあり、運営には大変な苦勞をされたことであろうと存じますが、生徒たちにとっては得るものがとても多かった、忘れられない経験になったと強く実感しています。参加させて頂きありがとうございました。運営に関してですが、1つ改善が必要なのではないかと感じた点が1点ありました。分科会の中での出来事なのですが、約2時間の司会を全うされた担当校がその分科会についてのまとめをする時間が必要なのではと感じました。分科会のまとめを行われていたため、昼食を摂られる時間が5分程度しかなく、疲れておられる状況でも息つく暇がないように見えました。また、宿舎に関しても改善が必要だと感じました。地理的な条件でホテルや宿泊施設が不足しているということは高知県職員の方々からお話を伺い、推察することができましたが、青少年の家に宿泊せざるを得ない生徒・引率者はとても大変であったと感じました。生徒・引率者ともに慣れない土地で慣れないことを行っており、心身共に疲弊しきった状態での青少年の家への宿泊がとても酷なものだと感じました。一人ひとりの生徒・引率者がしっかりと心身をリセットできる場を設定する必要があるのではないかと感じました。以上誠に恐縮ながら、改善点についても記述をさせて頂きました。今後の開催がも更に有意義なものになるように、少しでも役に立てばと存じます。最後に今大会の準備と運営に携わられた皆様に心から感謝を申し上げたいと思います。本当にお疲れ様でした。素晴らしい経験をありがとうございました。
27. まず何よりも、今回このような生徒達にとって非常に貴重な機会をいただけたことに、心より感謝いたします。特に、地元の方々の大歓迎は深く心に残るものでした。どのようにお礼を言っても言い尽くせない思いでおります。ほんとうにありがとうございました。このような貴重な機会が、今後とも持てたらと、強く思います。実は、本校でも、「高校生による国際会議」をSGHの取り組みでここ3年ほど行っているのですが、参加した生徒達の満足度や真剣度は、今回の方が高かったかもしれません。それは、やはり、バックボーンにある課題の大きさとその取り組みを実際に見せてただけたことが大きいと思います。それに、安倍首相や潘事務総長のメッセージに表れているように、国の真剣度が生徒達にも伝わった成果だと思っています。関係者の皆さま方のご苦勞は計り知れなかったと拝察いたしますが、高校生達へのインパクト・影響は非常に大きかったと感じました。ありがとうございました。一点だけ、運営面で気になった点がありましたので、蛇足とは思いますが、今後のため、お伝えしておきます。それは、国内校の生徒の宿泊と特に夜間の生徒管理についてです。今回の「青少年の家」は、正直、部活動の合宿などの特定の管理者のもとでの指導には向いている場所ですが、今回のように多くの学校が混在するような機会には向いていないと思いました。実際、夜間の生徒管理の責任の所在が明確でなく(引率教員も自校の生徒を把握しようにも把握しようがないし、特に、他校生徒を叱るわけにもいかず、かなりフラストレーションがたまっていました)、今回は

何事も(恐らく)なかったのがよかったですが、とても難しいと感じました。勝手な提案ではありますが、地元の方々があれだけ協力的だったのでいっそ、国内の生徒は町の方々のお宅に分散してホームステイとかもよかったのではないかと思います。町の方々にとっては、海外生徒のホームステイはかなりハードルが高いでしょうが、日本人生徒であれば、最近流行りの「山村留学」ではないですが、町の方々にとっても、若い孫のような子どもたちと触れ合える機会になるし、何よりも、高校生にとって開催地に強い愛着を持つ絶好の機会になります。教育的な効果が高いことは、さまざまな取り組みで実証されていますので、ご一考いただけたらと思います。また、今後とも、よろしくお願いいたします。

Ⅲ 海外高校引率者(抜粋)

1. プログラムの進行が速く、十分に参加できなかった。期間がもっと長ければよかった。
2. 1日あたりの訪問地の数を減らすか、数日に分けて訪問することで、生徒たちが休息を取りやすい。遠方から来ていたグループには時差ボケもあったと思う。
3. ディスカッションの時間がもっとあればよかった。似たような環境を持つ近隣国の生徒が集まることで、災害時に地域内での協力を行うことができるので、そのようなグループ分けでもよいと思った。また他のグループの声で自分たちの議論の声がかき消されないように、場所を離れた方がいいと思った。
4. 参加募集の段階で、いくつかの課題をいつまでに仕上げるのかを明示してほしい。それがわかれば試験時期が重ならない生徒を選考することができる。公式サイトがインターネットやソーシャルメディアに早い時期から開設されていなかったため、情報を得るのが難しかった。生徒が体調不良で早くホテルにはいった後の夜、日本人担当者と連絡が取れなかった。全ての部屋に連絡を取り、最終的には連絡がついて生徒が食べるものを確保することができた。
5. イスラム教のお祈りの時間をプログラムに入れてほしい。教員は学校訪問で授業の様子を見て、質が高いと言われる日本の教育の様子を知ることができればよかった。

以上

「世界津波の日」高校生サミット in 黒潮
事後アンケート(生徒)【4. 自由記述】

問:「今回のプログラムを通じて、最も印象に残ったこと、学校に戻ったら、伝えたいこと、実施したいこと等自由に記入してください。」

I 高知県内高校

1. 今回、高校生サミットに参加して、まず私が高校生活を普通に送っていたら、このようなサミットには参加できていなかったともいます。そのような意味でまず我が校を招待して下さいの方々に感謝したいと思います。印象に残ったことですが、やはり私達が行った発表がとても印象深いです。私たちは普段から地域の人々に協力して頂きながら共に防災活動を行っています。その中の活動には今回発表をさせて頂いた内容や防災劇ソッセンジャーも含まれています。ですが、まさか世界の高校生に私たちの願っている「ソッセンジャーになろう!」という言葉が伝わるとは思っていませんでした。私はその時、普段からこのような活動を地道に重ねてよかったと思いました。まさに、地道な活動が報われた瞬間でした。私たちのグループは、A-3だったのでA-3のグループにしか伝わらなかったのかもしれませんが(これを思うと全体の前で、防災劇ソッセンジャーを上演したかったです)少しでも世界に伝わってくれたら大変幸せなことです。また、ソッセンジャーという言葉だけを知って下さった高校生もいましたが、言葉を知ってもらえても意味を知ってもらえないとあまり意味のないのではという考えも出ていました。来年度開催されるサミットには、私は出場することはありませんが防災について考えている後輩に期待して、見てみたいと考えています。最後になりますが、今回このような素晴らしいサミットを高知県で開催して頂いて本当にありがとうございました。
2. 私は今回の津波サミットを通じて、より、地震津波に対しての意識が強まりました。まだ家に防災袋がなかったので、すぐに作って枕元には靴を置くようにしたいと思います。また、食料水などを備蓄しておくように、両親と話したいと思います。また東日本大震災の話なども聞けて、より津波の恐ろしさを感じました。このような機会はなかなかないのでとても良い機会になりました。
3. どの国も被害を減らすという考えでは一致していた。学校では、津波サミットの経験を活かし、まず生徒への防災意識の向上の呼びかけを行い、スクールバスに乗車しているとき、津波が来たらどこに逃げるべきかをマニュアル化していきたいと思った。また、生徒会に防災担当を置くといったことも考えていきたい。
4. 今までテレビやネットでしか知らなかったけれど分科会を通して海外の津波について知ること

ができた。私は日本が地震大国で他国は地震など起こらないだと思っていたが、まったく違い、地震だけでなく、津波も起こっているのを知り、その事実衝撃を受けた。だからもっと海外の災害に目を向けないといけないと感じた。普段の美しい自然が猛威を振るうという言葉が心に残った。フィールドワークで高台にのぼり、海に向かって叫んだのは初めてだったが、とても気持ちがよかった。他にも各国独自活動を知ることができ、多くの他国の人と交流もできた。でも、あまり会話ができず、もどかしさを感じたので英語は大事なんだと痛感した。このサミットを通じて私は伝えること・行動することの大切さを知った。伝えなければ人は誰もわからないし、伝えても行動しないと何も起こらない。だから今回話し合ったことを周りに伝え、行動し、よりよい街づくりをしていきたいと思う。そして未来の防災リーダーとなれるよう、海外に目を向けたり、積極的に行動したり、たくさんの人々と協力したりしたい。支援してくださった皆様、本当にありがとうございました。機会があれば、また参加したいと思います。

5. 避難訓練の時、自分たちは案内されたので道がわかったが、初めて来た人だったら避難できるのかなと感じた。分科会などもマップなどがあまりないとか、初めて来た人がどこに逃げればよいのかがわからないという意見も聞かれた。日本では、2020 年オリンピックが開催されるので、そういうことも想定した行動や地域づくりが大切なんだとあらためて感じた。
6. 今回、私は英語がほとんどできないまま参加して、非常に反省しました、今後、世界に自分の研究結果の発表をするときや、議論をする場合、ただ自分の好きな分野だけの勉強をするのではなく、英語や、いろいろな国の文化も知っておかないと、また同じように周りの人は意思疎通ができていない状態で、自分だけ何にもわからずただ茫然とするまになってしまったと思います。分科会の時、みんなゆっくりしゃべってくれているにも関わらず、質問をうまく聞き取れず何度も聞き直したり、それに、聞き取ることに集中して自分の質問まで気が回らず、今になって質問しておけばという後悔があり、あまり満足のいく議論はできませんでしたし、相手にも申し訳なかったです。また、韓国の学校では、実際に模型を作って実験したものを発表していたので、実際の体験というのが私たちの発表は少し足りなかったと思いますし、備蓄品の試食などをしたアピールをして説得力をつけるべきだったかとも思います。全体を通しては、英語を学ぶことの意味を本当の意味で理解できたし、防災に関しても、高知の学校だけでも違うさまざまな活動をしていたり、この国ではこういう災害がよく起こるんだと知ることができたので、非常に学ぶことの多い良い経験になりました。
7. 今回のサミットは今までの自分の災害に関する意識を改めなおす良い機会になりました。私の一番印象に残っていることは韓国と中国のプレゼンテーションです。韓国のクムホ高校は「津波の威力を抑える」というテーマでテトラポッドの研究について発表していました。私は津波対策は逃げるしかないと思っていたので、韓国の人たちがテトラポッドはコンクリートより玄武岩がいいとか、それにつくサンゴ礁の利点など様々な視点から研究していることに驚き、とて

もテトラポッドに興味を持つことができました。また、自分たちの研究を他の人に伝えるという意思をすごく感じて見習うべきだとおもいました。中国のハイナン中等学校は「台風」をテーマにした発表でした。私の住んでいる地域では災害＝地震で、台風もくるけどそこまで強くなかったの、日本のすぐ近くの中国で台風がとても大きな被害をもたらしていることに驚きました。地域一体となって避難経路をつくったり、学校全体でディスカッションしたり、私たちが課題としていることを普段からしていることはとても素晴らしいと思いました。他にも津波避難タワーに上ったり、安政津波の碑を見たり、地元の小学生と避難訓練したことは今まで以上に地震の身近さや恐ろしさを感じることができ、これからは私たちが家族や学校、地域においてリーダーとなり、みんなを守らなくてはならないと思いました。今はまだ地震とか災害についてあまり詳しくないし、ちゃんとしたこと分かってないけど、今回のサミットで学んだこと、体験したことを友達や家族に話したり、さらに深く学んだりしてどんなに遅くても三年後には日本だけでなく世界の防災リーダーになれるくらいの知識と行動力を持っていきたいと思います。今回のサミットはとても貴重な体験になりました。「助けられる側から助ける側に」これからもっと災害について学び、自分のできることを見つけたり、地域の防災活動に積極的に参加しようと思います。ありがとうございました。

8. サミットに参加を決めるまでは、防災に対する意識が決して高いとは言えなかったのですが、事前学習の準備や本番の分科会など、様々な活動により、新たな防災知識を得ることができ、地震・津波に対して備える意識が高まったと思います。自分たちの学校で注目した防災食については、事前に専門の方からのお話を聞くことができ、家や学校に備蓄してある防災食を見直す良い機会になりました。実際にアルファ米を試食した際にも今まで想像もしていなかったことを発見したり、普段はただの調味料とでしか思っていなかった「塩」が非常時にはこんなにもありがたく感じるのだな。など衝撃を受けました。また、分科会での他県・他校の発表でも、自分たちが思いつかないトピックで研究していて、分科会ならではの意見交流ができたと思います。慣れない英語での発表はとても苦労しましたが良い経験になりました。分科会で一番印象に残ったのは、韓国の学校の発表で、「テトラポット」についてです。私は津波の被害を少なくしようと思えば、壁の防波堤を思い浮かべます。しかし、韓国の学校はテトラポットの形と材質に注目し、研究をしていました。実験映像を交えて説明しており、とても分かりやすく、材質を一般的なコンクリートではなく玄武岩を使用することにより、形に変化が生まれ波の高さを和らげることができる。という発表でした。これはとてもいいアイディアで日本のテトラポットはどのようにできているのかが気になりました。このように、他県・他国のそれぞれの視点から防災について意見交換することにより自国にも取り入れることのできる方法があるので、周期的にこのような機会を設けたら良いと思います。フィールドワークで感じたことは、実際に避難道路を歩いてみると、「これは、高齢者の方には厳しいのでは？」ということです。急斜面が少し気になりました。今回のサミットを通し、防災意識を高めることができたのは当然ですが、他県・他国との交流ができたことが一番の収穫かなと思います。学んだこと・感じたこと

を、自ら発信することのできる活動にはこれから積極的に参加し、また、学校でもなにかしらの形で、このサミットでの他県・他国の意見、発表を広めたいです。

9. 今回のサミットで最も感じたことは、住んでいる地域や文化、方法が違えど、災害に対して真剣に向き合っていこうという思いは世界共通のものなんだということです。参加していた高校生の中には実際に災害で家族や友達をなくした人もいました。しかしそれでも前を向いて生き残った自分たちが体験を伝えていくことに意味があり、それが生きている意味だ。と、語っているのを聞いてとても胸を打たれたのを覚えています。私は今回のサミットを今回だけのもので終わらしたくはありません。なので今後も参加した世界の高校生たちと情報などを交換しあい、世界中が災害に対して向き合っていけたらいいと思います。
10. 今回は、日本国内で外国の生徒とふれあえる貴重な時間を過ごすことができました。この経験を通して各国の防災・減災の取り組み方や意識の違いを知ることとともに、自分たちの天災についての知見が広まったことが大きな利点であったと思います。またこのような機会があれば積極的に参加したいと思います。
11. 今回の津波サミットで、めったにない多くの外国人や県外との交流もでき、さらにそれぞれが取り組んでいることを知れたのが一番印象に残っています。その新たに得た知識やアドバイスを生かしこれからの防災活動に役立てていきたいです。これからやってみたいことは、近くの高校や市役所などと協力して地域での活動を活発にやってみたいと思っています。
12. 今回の津波サミットで私は防災に対する気持ちがよりいっそう強くなりました。理由は今回のサミットでいろんな国の意見を聞いて考えることができたし、ほかの県の学校から来た人からも話を聞けたからです。他の学校の人たちもやはり自然災害に対する考えがあり、学校によって考え方がそれぞれありいろいろ参考になることがいっぱいありました。また今回のサミットで見たり聞いたりしたことをみんなに伝えたいなと思いました。だから、みんなに伝える機会があればなと思いますし、またこういうサミットができたらいいなとも思いました。
13. 今回のサミットを通じて最も印象に残ったことは、グループ内で各国の学校の発表を聞いたことです。須崎工業高等学校の場合は、上り坂があり、山に囲まれていて、避難所としてつかうことができ、他にも須崎市内にはたくさん避難所がありますが、日本や外国の各地域によっては須崎のように避難所がたくさんあり、学校も高いところにあるとは限らないと思います。最悪の場合避難所が全くないところもあると思います。避難所が地域内にあれば、もしくは避難所がある地域が遠くなければすぐ行動できると思いますが、それが逆だと救助が早く来れば幸いですが、救助が来る前に津波が来たら何もできないので、自然に勝つことができないのはそういうことなんだなと実感しました。しかしこのサミットの本来の目的は災害に備えるた

めに各国の学校代表がアクションプランを考え、その意見を交流し、共有し合い、数年後に必ず起こる災害に対し何ができるかを考えることだと思います。B-4 のグループ、トルコやマーシャル、中国、国内では井原、横須賀総合、明治学園中学高等学校のプレゼンテーションの資料を見ると、どの学校の資料も問題点や課題を自覚し、それらのことに対するアクションプランがしっかりまとめられていてどれも今後の参考になる内容だなと思いました。「自然は美しいが、時としては牙をむく」という言葉も深く印象に残りました。

Ⅱ 県外国内高校

1. はじめに、今回このような貴重な機会を得られとても嬉しく思います。また、サミットに参加させていただき、本当にありがとうございました。今回のサミットを通して、私は少しでも国内外の方々に東日本大震災を伝えられたのではないかと考えています。私は震災を岩手県沿岸部の山田町で経験しました。以前からその経験を誰かに伝えたい、伝えていかなければならないと震災を経験した者として思っていました。が、なかなか機会を得られませんでした。そんな時に今回の黒潮町でのサミットの開催を聞き、ぜひ参加したいと思いました。会話は基本的に英語ということで、言葉での面での不安はありましたが、実際話してみると皆さんが私の拙い英語を理解しようと聞いてくださり、とてもありがたかったです。人の温かさにもふれられた機会でもありました。分科会では津波などの災害に馴染みのない国の方もいましたが、深く掘り下げた調査をされていて、他国の災害にまでも目を向けているところが凄いなと思いました。他人事だと思わずに、いつどこで起こるか分からない災害への備えをすることの重要性を知ることができました。また、国や地域によって環境は様々であり、起こりやすい災害も違えばそれに対する備えも異なることが印象深かったです。私は今岩手県に住んでいるため、やはり東日本大震災ばかりに目を向けてしまいます。もちろんそれも必要なことではありますが、今回世界各国の高校生と交流し、それぞれの国の災害等について知ったことで、“災害から命を守る”ということが日本のみならず世界共通のテーマであり、未来の担い手である我々高校生がそれを達成するため自ら行動していくことが求められているのではないかと感じました。この度は貴重な機会をいただきまして誠にありがとうございました。
2. 今回『「世界津波の日」高校生サミット in 黒潮』に学校、さらには岩手県代表として参加し、貴重な体験ができたことに大きな喜びを感じています。サミットに向けての事前準備の段階では、果たして自分が英語でスピーチできるのか、海外の高校生の発表を理解できるのか、本番の状況がつかめず不安で仕方ありませんでした。私たちのグループでは私も含めて東日本大震災被災地域に住んでいたメンバーもあり、津波というものを目の当たりにして、感じたことを共有し、今回の震災を振り返って、個人・社会それぞれが今後どのような対策をとっていけばよいのかを話し合いました。また家族からの聞き取り調査や、石碑といった津波モ

ニュメントなどからも、過去の津波被害の状況や、今なお受け継がれている教訓を知ることができました。さらに岩手県庁の岩手県総合防災室を訪問し、県民の防災意識啓発のための取組についてお話をいただき、災害の被害を最小限に抑えられるような解決策を明確にすることができました。限られた時間の中で、本番に向けて準備し、自分たちが経験した東日本大震災やそれ以前の出来事から得た知見について、海外の高校生にしっかり訴えることができたと思います。海外の高校生が自然災害に対してどのくらい意識があるのか、サミットに参加するまではわかりませんでした。分科会を通して海外の高校生も自分が住んでいる地域で起こりうる災害のリスクを真剣に考え、積極的にディスカッションしていた姿勢がとても印象に残っています。モルディブやポルトガルの高校生は目立って発言をしていました。母語ではないのに英語を流暢に話している彼らの姿を見て圧倒されてしまいましたが、勇気を振り絞って「少しでも多くの人命を救えるような地域社会のコミュニティ作り」の重要性を訴えました。私が話し終えた途端、彼らは拍手をしてくれました。少し自信が湧きました。彼らに自分の思いがどのような形で届いたかは分かりませんが、あの瞬間私は彼らとつながったような気がしました。また記念植樹やサミット終日に行われたフェアウェルパーティーでは、日本食をはじめとする日本の文化について説明し、積極的な異文化交流ができました。特にモルディブの生徒には納豆について説明しました。一方モルディブでは海面上昇によって島が沈水しているという問題や、生まれた時から現地語と英語を話していること、普段は海で魚を釣って料理して食べているといった文化についてもたくさん教えてくれました。私の下手な英語でさえも彼らは真剣に耳を傾けてくれたので、とても話しやすく会話が弾みました。今回の津波サミットを通して、国も違えば発生する自然災害も様々だけれども、世界各国の高校生と真剣に話し合い、自然災害に対する意識をさらに高められたので、大変貴重な二日間になったと思います。学校に戻ったら海外の高校生との交流の成果を周囲にも還元していくとともに、「未曾有」とよばれている津波を経験した世代の人間の一人として生涯にわたってその教訓を伝えていきたいと思いました。

3. 私は今まで東日本大震災被災地の人間として何か伝えなければならない、復興に携わりたいと思いつつも、何か行動に起こしたことはありませんでした。ですので、今回のサミットは強く心に残る貴重な体験となりました。私の最も強く印象に残った出来事は、分科会で他国の発表を聞いたことです。発表のあった国の中には、津波被害があまり起こった例がないという国もありました。しかし、その国も津波についてよく調べ、自分たちの国で将来起こるかもしれないという危機感を持って捉えているのを見て、津波は日本や自分たちの地域だけの問題ではないのだと痛感しました。また、同時に私たちは自国になじみのない災害に対して、ここまで真剣に考えたことがなかったことにも気がつきました。津波だけに限らず、あらゆる災害に対して興味を持って、自ら学んでいく姿勢を大切にしたいと感じました。私たちはこの時代に生まれたからこそ、東日本大震災のことを後世に伝えていく義務があると思います。今回の

サミットはその大きな初めの一步になったと思います。これからも体験を発信して広く共有していきたいです。ありがとうございました。

4. 今回のプログラムを通じて防災意識また情報共有の大切さが大事だと改めて実感しました。自分たちが調べたことを含め、各国代表の高校生たちが自分の国の特徴や問題点を考慮したアクションプランを立て、発表しディスカッションをして更に良いものにするという貴重な機会を得ることができて非常に良かったと思います。自分たちが事前学習をする前は防災や津波のことについて無知であったように、自分たちの学校や地域の人々はそれらのことについてあまり関心がないように思われます。このような状況を改善するために今回のサミットで得た知識や経験を生かして積極的に発信していきたいです。自分たちの次の世代に繋げて世界的な防災意識の改善を目指していきたいと思いました。
5. 今回初の試みということで緊張や不安はありましたが、最終的に自分たちのプランや考えを共有できたことはよかったと思います。グループでの各国の発表を聞いて、やはりその国ごとに特徴が全く違うので地域に合う対策を行う必要があると感じました。特にネット環境の話になった際にWi-Fi環境が整っていない国も出てきて、自分たちが生活している環境がどの国にも当てはまらないことが再確認でき、だからこそ独自の対策案が聞けてより災害対策に関心を持つことが出来ました。グループ内には実際に被害を受けた盛岡からきた高校も参加していて、私たちにはわからない、被害を受けたからこそ思うことを切実に伝える様子はよく印象に残っています。30か国の参加ということで30通り以上の考え方、プランが存在します。それぞれの共通点、改善点を普段関わることのない高校生たちとディスカッションできたことはとても良い経験になりました。それを通してスムーズにチームのプランを提案できたことも、自分たちの考えた案をチーム内で良いといわれた時もこれまでの準備の達成感を感じることが出来、またこの様な会に参加したいと思いました。
6. 津波サミットへの参加が決まり、どんな国の人と、どんな話ができるのだろうかという期待がまず大きかった。いつも日本人と話す機会が多いが、海外のしかも高校生とはなかなか話す機会がない。津波サミットではそんな高校生とさらに災害についてそれぞれの国のことなど様々なことが話せるとなるので、本当に楽しみにしていた。私の分科会では、中国人とフィリピン人、ケニア人が同じグループにいた。みんな真面目でなかなか最初は話が弾まなかった。それでもどうすれば打ち解けられるのだろうかとか色々考え、提案したゲームはみんな楽しんでやっていて、ほっとした。次の日も最初は議論が進まなかったが、いろんな人に意見を聞いたり、助けをもらったりして、災害に対してどう予防できるのか自分たちなりにアクションプランを作ることができた。どの国も入念にプレゼンの準備をしていて、頭も切れて、話していて圧倒されるばかりであった。今回のサミットの山場は分科会での話し合いのプレゼンターを務めた時だった。分科会が終わり、ほとんど準備に時間が費やせないまま、英語でスピーチする

というのはとても緊張した。自分の分科会でせっかくみんなと話せたことを周りの人にきちんと説明できるのだろうかと不安になり、発表の前までやったことはほとんど覚えていない。しかし、舞台に立って深呼吸して話し始めたら、言葉がすらすらとでてきてとても楽しかった。もっとも英語を使っていろんな人と話し、英語をうまくしていきたいと心から思うようになった。今回のサミットで普段なかなかできないような経験をさせていただくことができ、本当にありがたかったです。これから今回の経験を生かして防災や災害についてもっと考え、自分でできることとしていきたいと思った。

7. 今回のサミットへの参加を通して私は、いろいろな人との出会いを経験することができました。いままでにも中国へ行ったり東北の被災地を訪れたりするなどの活動はしてきましたが、こんなに多くの国から多くの人が集まるイベントは初めてで、得難い機会をいただいたことに感謝しています。Twitter や Facebook などにつながることでできた仲間もたくさんいるので、今後生きる人脈になるだろうと思っています。海外の人たちだけでなく、国内でも優秀な高校生と出会うことができ、大きな刺激になりました。また、自分の学校から一緒に行ったパートナーや引率してくださった先生ともたくさんお話しできて、改めて自分の置かれている環境の素晴らしさを感じるとともに、自分もふたりの様にもっと意思を持って行動できる人間になりたいなと思いました。高校生の語り部の方々のお話を聞いて、自分と同じ歳なのにとってもショックな経験を幼いうちにしてしまったのは大変だと思いました。しかし、それに対していつまでも嘆き続けるのではなく自分にできることを探して今の様に活動しているのは素晴らしいです。被災地では風化が問題となっていますが、津波サミットなどのイベントや語り部のお話は皆に災害の恐ろしさを思い起こさせる良いきっかけになります。「天災は忘れたころにやってくる」と言うので、私たちは災害への備えを忘れることなく、災害による被害を最小限にとどめなくてはなりません。こうして私の感じたことを家や学校では話しましたが、もっと多くの人に意識を高めてもらう必要があります。これからも微力ながら災害への意識向上を呼び掛けていきたいと思います。
8. 今回のサミットに参加したことで、人前で発表する、自分の気持ちを相手に伝えることの大切さを理解し、それを行うことができた。それを実行できた自分の成長を実感することもできた。私は災害は世界共通だと思っているし、日本だけが特別に被害を受けているとも思っていない。そうした上で、今回ケニア、フィリピン、中国の人々の発表を見て、国ごとで災害に対する思考、防災の取り組み等の情報を知ることができてよかった。またこういう機会があれば、是非参加したいと思っています。ありがとうございました。
9. 海外の方が意外と優しく、話しやすかった。分科会で、自分たちが思ってもいなかった新しい考えがたくさんあり、とても勉強になった。

10. 私は今回のサミットで様々なことを学びました。津波の危険さ、他の国の対応、自然の大切さなど。私は今回学んだことを自分たちの今後の活動で活かしていきたいと思います。
11. 今回の高校生サミットを通じて、僕は災害への備えについて知識の重要性を知りました。たとえば、今回参加した避難訓練では、地震が起きたら身を伏せて揺れが収まったらどこに移動するのかなどの指示があったので、スムーズに避難できましたが、実際に地震が起これば指示はないので、自分でどうすればよいか知識を持つことが大切だと感じました。また、日本だけでなく世界の様々な地域で様々な災害が起きていることを知りました。いつ、どこで、起こるかわからない災害に備えるためにはその土地についての最低限の知識を持つことが必要だと思います。また、今回のサミットでは世界の人々と交流することができ、普段他人事のように感じる海外の災害についても身近なことのようには思いました。災害で不幸な思いをする人を少しでも減らすために、普段から災害について関心を持ち、機会があれば他の人にも伝えていきたいです。
12. 生徒会誌の有志投稿によって今回感じたことなどを発信しました。津波を経験した人の話を聞いたり、海外の学生と情報交換をしたりおしゃべりができたりしたことはとても良い経験になりました。司会の学校の割り当てはネイティブの学校がやるとよいですね。
13. 私が今回サミットで印象に残ったことがあります。それは、ある中国の方に「津波の映像を最初に見たとき、どう思ったか。」と聴いてみたことです。その方は、「反省した。自分は海の近くに住んでいるのに、何の備えもしていない。自分が、これから防災を人に伝えられるようになりたい。」と答えました。私は、このサミットには、他国の方は津波及び災害に対してどのような考えを持っているかを知りたいと思い参加しました。というのも、災害に対して防災意識が他国では低いのではないかと考えていました。結果的には、他国では意識が低い状況にあるのは間違いないと思いますが、私にお話を聞かせて下った中国の方のような人たちが、自国の防災意識を高めていくのではないかともし思いました。私もそのような方々を見習って、自分が住んでいる地域での防災に対する意識を自ら率先して高めていきたいです。
14. 今回参加して思ったことは、津波をもう少し具体的に世界に発信した方がよいということです。同じグループの中で、津波について聞いたところ、私たちの認識と大きく異なっているところがありました。その差を埋め、津波の怖さを共通認識していくことが大切だと思います。今回多くの国や地域の人と関わることが出来て良かったです。多くの人と関わっていくことが防災の第一歩となるはずで、多くの人とのつながりを、学校でまた広げ、どんどんその輪を大きくし、一つの大きな輪をつくっていききたいです。このような機会をいただき、ありがとうございます。

15. まず私がサミットに参加して思ったことは、私が思っていた以上に他の国や他の県の学校が防災や津波のことについて考えているということです。私の住む宮城県は県が一丸となり防災・減災など心がけていて、津波についての意識も高いのですが、他の県の学校の中には、津波の注意を呼びかける看板を作っていたり、避難場所・ハザードマップの作成など、想像以上に意識の高いことがわかりました。しかし、一般的に津波は大きな波というイメージですが、実際の東日本大震災のときの津波は「黒い壁」のようなものでした。そのことに関しては、経験していない人からするとイメージができていないのかなと思いました。動画などで見ると、いざ津波がくるとなった時に本当に避難できるのか、冷静に判断できるのかということが大切になってきます。それから、私が印象に残ったことは、一人ひとりの意識ということです。私の班の高知県の高校では、非常用のカバンや裏山に避難するための道の整備をしているというのをききました。学校の目の前が海ということで、意識が高いと思いました。ですが、仮に少し海から離れている内陸の高校では、一人ひとりにはそのような意識はあるのか心配です。そのため、海に近い高校のしていることを、そうでない高校も共有し、お互いに調べ合うことで、万が一大きな津波がきても被害が減ると思います。私が学校に戻ったら、このサミットで得たものを他の生徒や先生と共有し、今後の活動に活かしていきたいと思います。他の学校について知ること、私の学校一人ひとりの意識も変わり、一人ひとりが日本で起こりうる地震や津波などの災害について考えることができるのではないかと思います。良い機会をありがとうございました。
16. 振り返って最も感じるのは、国外の高校生と交流することが出来た、滅多にない貴重な時間だったなということです。日本ではそのような機会が少なすぎると個人的に思います。これまでは、そこまで深く考えたことのなかった災害について、サミットに参加したことによって真剣に考えられるようになりました。ディスカッションでは、他国の人が実際に体験した過去の話を知ることができ、啓発されました。日本では考えられないようなこともあり、内容が刺激的で印象に残りました。少しずつではありますが、このサミットで学んだことを身の周りの友達一人一人に伝え、理解して影響を与えられるように行動していきたいと考えています。
17. 【分科会・分科会代表発表】私は、英語で流暢に話すことが出来ないのに、海外の方に、私の言っている意味を理解してもらえるか・そもそも聞いてもらえるか等、不安で仕方ありませんでしたが、引率の先生方やチームメイトの励ましのおかげで、何とか頑張れました。個人的には反省する部分も多々ありますが、それよりも自分の実力を知り、向き合うことが出来たことが良かったです。実際に海外の方と話してみると、やはり気づくものは多いと感じます。本当に良い経験をさせて頂きました。サモアの高校生の方が被災体験を話してくださり、やはり(津波)災害について本当に理解していたのではないのだと感じました。また、同じ分科会のグループに東日本大震災を経験した高校生の方がいて、災害を経験したことのない私たちが災害(の被害)について、彼ら彼女らの苦しさや悲しみ、悔しさを本当に分かんとは到底いえ

ないと感じました。だからこそ、余計に知る努力をしないといけないと思いました。岩手の高校の方が事前調査としての取り組みの中で挙げていた「疑似津波体験」というのがとても興味深かったです。津波災害を分かりやすく知ることが出来て、素晴らしいと思いました。実際には難しいかも知れませんが、私の住む地域は海拔が低いので、模型を作成して災害体験を行うことが出来れば良いなと思いました。各国の同世代の高校生たちと、災害という将来に絶対に起こりうる問題について話し合えたことは、本当に貴重だったと思います。【避難訓練】地元の高知県役人の方や小学生たちは、サミットの何日も前から打ち合わせやリハーサルを何度も行っていたことをお聞きし、本当に感謝しかありません。案内しつつも高知のことや災害について、多くのことを教えて下さったり等、おかげさまで充実した訓練でした。ありがとうございました！【パーティ】・海外の方とも、日本の各県の人とも本当に楽しめました！高知の最高の鰹もご飯も美味しくて、話が弾みました。流行りのPPAPを踊っていたり、地元のダンスクラブの方が「よさこい」を披露してくださり、それに交じって多くの人が壇上に上がって共に踊っていた光景も、忘れられません。

18. 世界の人々の考えを知ることができたとても良い機会だったと思う。もっと多くの人に、災害と防災について考えてもらいたい。
19. 分科会で他の国の課題点や体験談を聞き、自分の地域でも活かせることができそうな内容を知ることができた。また、自分達の発表を多くの人へ伝えることができ、良かったと思う。他校でも今後も活動が続け（特に須崎工業高校の模型）、地域での防災に役立ててほしいと思う。私たちは、来年度に向け後輩へ津波模型の活動を引継ぎ、後輩はこの活動をこれからも続けていってほしいと思う。
20. 今回このサミットへの参加で防災についてとても勉強になりました。そして何より自分の中で
の防災意識が高まるとともに、周囲の人へ発信できることはできる限りしていきたいという思
いが生まれました。事前学習ではハザードマップを作る過程、津波を知ることの大切さがわ
かりました。また、自分たちで津波に備えるための標語を作成することもできました。自分た
ちで、英語で福島県の被害状況、津波から避難することの大切さ、そのための日頃の意識の
仕方、そういったことを発表できて良かったです。ディスカッションの場では英語をきくことで精
一杯で自ら発言することはできませんでした。しかし、自分が考えていたことが発言されたり、
視点が違う意見をきけたりして、とても勉強になりました。また、他国の災害、防災について
今まで知らなかったのを、今回知ることができました。自分たちの地域でも学んだことを活か
していきたいです。また、たくさんの国の人とつたない英語ではありましたが、会話ができて
楽しかったです。そして自分とは違う考え方、発想にたくさん触れることができて勉強になった
し面白かったです。今回このような貴重な経験をさせていただけてこととても感謝しています。

ありがとうございました。

21. 今回のプログラムを通して、国際協力の重要性を改めて実感させられました。今回参加した国の中には津波はおろか自然災害すらもほとんど起こらない国もあったため防災への意識が国によってまちまちでした。そのため他国の災害への意見や災害の実例を知れたことはとても参考になりました。特に良いなと思ったのは、学校に災害対策チームを設け、医療行為の仕方などを学び、自助・共助に役立てるというものです。私たちは災害が起きたらどう回避するかということばかり考えていましたが、よくよく考えてみれば災害によっておこる傷などの二次災害から身を守るということも大切です。その上で、このような取り組みは今後取り入れていくべき活動だと思います。最後に、私たちが磐城高校を代表して、サミットに参加した以上、私たちにできるだけ多くの人に今回学んだことを伝える義務があると思います。今後予定している生徒研究発表会を通して、伝えたり、自作したハザードマップを地域住民に配布するなどして、防災意識の向上の手助けができればいいなと思います。とても良い経験をさせていただいたことに感謝したいです。
22. 今回のサミットに参加し国内外の高校生と関わったことで、今までにないたくさんの刺激を受けることができた。世界各国の人とひとつの課題に対して意見を交流するという滅多に出来ない素晴らしい体験が出来て本当に良かった。そして、初めはとても不安だった他国の人のコミュニケーションも、チリや中国の人と話すうちにたとえ英語を上手く話せなくても伝えようとする気持ちをもつことが大切だと感じ、積極的に話しかけることができた。また、最後の総会でいくつかのグループが提案した SNS でグループを作る案など自分にはなかった考えにも触れることで、様々な視点で防災について考えるとても良い機会になった。この繋がりを今回だけのものにせず、これからの世界の防災のためにも、私たち高校生が母国だけでなく世界にも目を向け、防災について考え、今回出た意見を実際に行動に移すことが最も重要なことであり、私たち高校生がすべき役割なのではないかと思う。だから、キャンドルプロジェクトのように小さなことでもできることから始め、世界に発信させていきたい。そして、震災の風化防止や減災に努めていきたい。
23. 今回行われた高知サミットは防災をテーマに様々な国とグループごとに分科会で話し合うというものであった。私は今回のサミットは自分にとって貴重な経験であり、大成功に終わったと考えている。しかし、初日は皆自己紹介もどうしたら良いか分からず他のグループに比べあまり盛り上がりがなく、このままでいいのかと不安だった。その時私は司会のせいだとか、席の配置が良くないだとか勝手思っていました。この考えは大きく間違っていた。二日目は分科会で高校ごとのプレゼンがあり、水沢高校の発表では他の 2 人が完璧な発表をした後、緊張して詰まっていまい 2 人に迷惑をかけてしまった。他の高校のプレゼンテーションなどを聞くと、その国だからこその考えや対策などがありとても興味深い内容ばかりだった。

分科会の自分の失敗から午後はできるだけ外国の方と話すようにしてみた。英語は全然出来なかったが、インドの方など話してみると相手も私もわかりやすいように話してくれ、初日の自分の勝手な決めつけを深く反省した。高知サミットで津波や防災をテーマに様々な国の意見を聞き考え方や捉え方について参考になったことが多くあった。今回聞いて取り入れられるところは取り入れ、岩手でも広め、今回の高知サミットが意味のあるものになるようにしたい。そして私達で考えた風化防止につながるようにしたいと考えている。

24. 田老での研修から丸一年。私たちはこれまで、防災や復興の分野においてさまざまなことを考え、さまざまなイベントを企画してきた。今回はその集大成、また新たな活動への第一歩となるとても貴重で大切なサミットとなった。分科会では四つの国が一堂に会し、英語でお互いの地域の現状や活動を報告したり、コミュニケーションをとったりした。初めはネイティブの発音についていくのに精一杯で、会話がなかなか通じず大変だった。しかし、インドの人達と食事をして、ヒन्दウー教の食事制限の話題で盛り上がると、心の距離が段々縮まっていくように感じられた。PPAP のインドバージョンの動画を見せたらとても喜んでくれたのでよかった。そのインドの人とは植樹も一緒に行った。スコップの使い方や防潮林の役割を彼に教えると、インドの気候やサイクロンについてたくさん教えてくれた。このような各国での文化や境遇の違いがあることがとても面白いと思った。総会で出された各グループのアクションプランは、津波以外での防災を講じるものもあった。石巻高校の彼が言っていたように、世界で安全な地域というものは存在しないので、その地域に応じた柔軟性のある防災が必要であること、また、防災意識を高めることは最も重要な対策であり、それは私たちの世代がさまざまな手段を用いることによって実現可能だということを、この場で学ぶことができた。このサミットから学んだことを、これからの SSH の活動や将来の自分の糧とし、ひとりの日本人としてこの国や世界のために尽力することが、ドットを繋げていくことにつながるのだと考えている。
25. 今回のサミットの事前学習をしたことで、防災に対する知識・考えはとても深まりました。しかしそれだけでなく、英語でプレゼンをし、英語でディスカッションをしたこと、つまり英語でコミュニケーションをとったことが最も印象に残りました。英語という母国語でない言葉でのディスカッションでは、言いたいことを伝えられないふがいなさを感じました。同じグループでも英語がとても上手な子を見ると、もっと英語を勉強しなければと励みになりました。プレゼンデータも感心させられるものばかりでした。私が最もまわりに伝えたいことである、高校生が中心になるということ。そのことをこのサミットで実感できたので、これからも心にとめて生活していきたいと思いました。
26. 海外の人達とコミュニケーションをとることによって、自分達の国の文化、伝統では見えないところを他国からの特別な視点で見ることができ、お互いの国で不足しているものへの解決法を見出すことができた。日本の学生があたりまえのように持っている iPhone でも、ある国で

は高くても買えないという話だった。それには驚いた。そのような知識を持つだけでも、全員が自分と同じで同じ物を使い、同じような生活をしているのではないということを前提としたアイデアで議論することができた。とても大事だと思った。日本では味わうことのできない価値観だった。これから自分達が勝負していくグローバルな社会のなかで、自分の当たり前だと思っていることを相手に言うことが意見のすれ違いの防止になるし、より深い関係を築き上げていく中でも役に立つと思う。そういった経験を自分の世界の中にとどめておくのではなく、まだ経験したことがない人にも伝えられたら、それが自分だけでなく他人にも良い経験になると感じた。日本では、自分達のあたりまえを見直すという機会がまったくない。だからこそ海外の人達とコミュニケーションを積極的にとることが自己投資になると思う。様々な人、自分と同じで人とコミュニケーションをとることはとても楽しい、とこの津波サミットで感じ取れた。だからこそ、ボランティアとしてだけでなく、政治、仕事など幅広い分野で積極的にコミュニケーションをとっていきたいと考えた。

27. 今回のサミットで一番印象に残ったことは、東日本大震災で被災した東北の高校生による、報告です。私は、震災が起こった日、自分に関係の無いことだからと何気なくすごしていました。しかし、今回の報告を受けて、東日本大震災の体験は、他人事ではなく、これからの減災に生かしていくものだと思います。避難する時にはより安全な場所に逃げること、建物や交通機関の復興だけではなく、心の復興があってこそ、被災地が復興したと言えることなど、被災地で体験された全ての事を生かしていきたいです。また今回のサミットで災害について意識を高く持つことも大切だと思いました。総会で多くのグループが、高校生が意識を高く持つことの重要性を話していたので、私たちの学校でも意識を高く保つように啓発する活動をしていきたいと思いました。
28. このサミットに参加して、今までの私は防災に対して並の知識しか持っていなかったように感じます。しかし、海外の高校生や実際に被災した高校生のプレゼンをきいて、防災に対する意識が向上したように思います。最も印象に残ったのは、実際に被災した高校生のプレゼンでした。やはり、いくらインターネットや本で調べても本当の声を聞くことに越すことはないのだと改めて感じました。彼らの語り部として東日本大震災を受け継いでいく姿勢に感動しました。それをきいていた海外の高校生もきっと日本の防災について深い理解を得られたのではないかと感じました。このあと、学校内でサミットから学んだことを発表します。できるだけ彼らの「本当の声」をリアルに伝えていきたいと思います。
29. 今回、このサミットに参加したことがきっかけで、私は防災について多くのことを学び、多くの人に会い、さまざまな人と意見交換することができました。分科会でのプレゼンテーション、ディスカッションでは、現状の異なる国どうしてもさまざまな課題や解決策を共有出来たので、防災に関する知識もより深まり、また、さらに知りたいという意欲も向上しました。特に、同じ

分科会に参加していた東北の学校のプレゼンテーションの中で紹介されていたアクションプランである「キャンドルプロジェクト」は、被災地ならではの取り組みでもあったので、非常に興味深かったです。このように、さまざまなバックグラウンドを持った人々が交流できるということは、より広い視野で物事を考えることに繋がると思うので、非常にすばらしい機会であったと思います。また、パーティーやブリーフィングなどを通して、国際交流も行うことができました。その中でも一番印象に残っているのは、別の世界高校生サミットというようなイベントで知合ったフィリピンの高校生と、このサミットで再会したことです。お別れのときには、またいつか と言って別れたのに、まさかこのサミットで再会できるとは思っていませんでした。このように、国境を越えた人と人とのつながりができるというのもこのような取り組みのすばらしいところだと思いました。私たちがこのサミットに向けて取り組んできたことは、実際に地域の防災への貢献に繋がったと思います。これからも地域の防災リーダーとして、活躍していきたいと思っています。そして、避けることのできない自然災害に対して、私たちの考えや対策が効果を表し、少しでも多くの命が救われればいいなと思います。

30. 私は、このサミットにおいて世界の各国からお越しの高校生たちの多くとこの防災問題について交流したり、意見交換などをするというすばらしいサミットであったと思います。私は、サミットの会場に来たときの多くの黒潮町の町民の方々の歓迎を見て私はこのような場に参加させて戴けていることに感謝の気持ちしかありません。私の学校のグループは自然災害の復興というのをテーマに自らのアクションプランを考えました。それはこれから巨大災害が起こった際に家に戻れなかった場合の避難する場所を市や県が用意する公民館や体育館ではなくて、新しい明るいタウンを作って、その避難すると見込まれる人たちが安全にそして快適に過ごせるような気持ちを持ってもらうというアクションプランを分科会において報告させていただきました。私は、その分科会での他の高校生の発表およびそのあとに行ったフィールドワークにおいて、様々なアクションプランを聞いたうえで、この世界のいろいろなところで起こっている防災問題は私たち高校生および日本だけではなくて、世界に暮らすその世界市民1人1人の団結というものがあってこそ、少しずつ解決というものが見えてくると感じました。これまでに起こった巨大災害、日本で言えば、阪神・淡路大震災、東日本大震災というものは日本だけではなくて世界のいろいろな場所から支援をいただき、このように一步一步ではあるものの、復興は確実に進んでいるのだと思います。また、分科会のときに、私のグループの司会を務めていたパラオの高校生が、私がグループコールをしたときに必ずしようという手拍子がありました。あれは、今でも忘れられない貴重な思い出となりました。あの手拍子をグループの全員としている時に私は、このチームと団結していると感じました。このサミットを通じて、参加させてくれた学校の先生方、高知県や政府関係者、国連機関皆様に感謝したいと思います。このサミットは私にとって貴重な経験となり、若い津波防災大使として、この問題の解決にむけて努力していきたいと思っています。

31. 私はあまり英語が得意ではありません。だから、今回のサミット参加を決めるときも不安が多くありました。しかし、今回のサミット参加は私にとってとても有意義なものになりました。一日目の自己紹介のときは、中学校で習った英語で話を理解することができました。しかし、わからない単語が一つでも出てくると文章全体の意味がわからなくなり、私だけ相手の言っていることがわからないという状態になってしまいました。そんな中迎えた二日目では、自分たちのアクションプランを発表しました。しかし、事前に覚えていた台本は頭から消え去って、台本をずっと見てオーディエンスにアイコンタクトもできないというとても良いとは言えないプレゼンテーションになってしまいました。午後の記念植樹では、甲陵代表としてタイランドの人とペアで植樹をしました。自分から英語で話しかける勇気がありませんでした。しかし、ペアの人が積極的に話しかけてくれたので、充実した会話をすることができました。今回のサミットは、防災についての国それぞれ違った考え方や対策法を聞くことができ、これから先の人生にとっても役に立つものでした。また、他国の人とSNSを交換することができたので、積極的に会話をして、自分の英語の学習に繋がりたいと思います。
32. 高校生にできることは少ないが、みんなで協力できれば大きな力となることを確信できました。またそれぞれの国で違った取り組み・アイデアを持っていて自分たちの考えを深めるきっかけとなりました。自分たちのアクションプランの欠点も見えてきたのでよかったです。またディスカッションをする中でほかの学校と繋がる所もみえて今後の連携・相談などのきっかけを与えてくれました。このサミットに参加したことによってより一層自分たちのアクションプランを実行してみんなの役に立つようになればいいと思いました。また全体発表を通して被災する可能性のある場所の対策や被災する可能性が低いところであることを聞けて「もっとこうすればいいのではないか。」などアイデアをたくさん生むことができたので今後も学校でのアクションに活かしたり他の学校にどんどん発信していきたいです。
33. 今回の津波サミットの活動を通して、津波はもちろんのこと地震のことについて、他の地域、他の国の生徒同士で意見を交換し、また、討論をするいい機会であったと思います。今回のサミットを企画、運営していただいた方々に深く御礼を申し上げます。ありがとうございました。
34. 今回のプログラムを通して、多くの人と一つのことを共に考え、そしてそれについて意見を出し合い、共有しあうことの重要性を強く感じた。県を越えた、国を超えた意見の交流は間違いなく自分自身の考えを深め、改めるきっかけにもなった。今回のサミットのメインテーマである「津波対策」、「災害対策」に関して言えば、自分とは住む環境や文化の異なる人と意見を共有することで今までにはなかった発想、アイデアが生まれた。このことは間違いなく互いにとって大きなメリットとなり、自分の住む県のあるいは、自分の住む国の津波対策、災害対策に活かされることだろう。私は今後、これらの意見やアイデアを意見やアイデアとして終わらせるのではなく、実行に移したいと考えている。そこまで行うことが、私たちの役割であり、今

回のサミットの意義を本当の意味で果たすことにつながると考える。さらに、今回のプログラムを通し、もっと災害についての知識を深めることが必要であるということも同時に強く感じた。知ったつもりはなっていたが、実際には自分の知らない津波の恐ろしい面、災害の恐ろしい面がまだまだあるということを実感した。

35. 今回、このサミットに参加して感じたことは「住む環境は違っても災害に対する意識は世界中の高校生の共通の意識としてある」ということです。5年前の3月11日、予想を遥かに超えた大地震と大津波の被害を受け、災害に対する意識は私自身、大きく変わりました。自然災害には豪雪、豪雨、洪水、台風、火山噴火など様々なものが含まれます。国によって頻繁に起こる災害の種類も様々です。全く異なる環境に暮らす同世代と災害について話し合いを持ち、意見を共有することで、自分の考えを深めることができました。災害についての理解を深め、自国に被害を被る自然の荒々しい一面と向き合っていくという考えが世界の共通認識としてあることはとても大切なことだと思いました。もう一つ、2日間世界30か国の高校生と活動を共にして感じたことがあります。私は普段の生活の中でテレビ、ラジオ、新聞、インターネット、等を通して世界で起こる出来事を知ります。報道のされ方は様々ですがコメンテーターの偏ってるような意見もよく耳にしていました。自分では気付かないうちに「この国の人はこういう人」というイメージが勝手に出来上がっていたのです。しかし、顔を合わせて話し合ってみると、想像していたものと全く違い、私の中の各国に対する固定観念がガラリと変わりました。今まで以上に各国を身近に感じ、今まで見えていなかったよいところに気付くことができました。そして、母国同士が政治的にいがみ合っていることをとても悲しく感じました。学校では2日間の経験から感じたこと、得た学びをより多くの人と共有するために、事後報告の場を設けていただき、「世界には災害と向き合い、解決策を見出そうとしている同世代がたくさんいること」「国際的な交流をすることで、視野が広がり、柔軟な考えをすることができること」などを伝えたいと思います。
36. 実際に「世界津波の日」高校生サミットに徳島県の代表として参加して、私たちは実際に国内外を問わず多くの学生たちと意見を共有し、私は彼らの真摯に防災について考える心に刺激を受けた。今回最も印象に残ったのは、高台への避難訓練である。それ以前からこのサミットに参加するにあたり、私はサミット中にもし南海トラフ地震が起こったらどうなるのだろうか、と何度も考えた。実際に避難訓練を行うと、サミット会場から高台に避難するのに10分前後はかかった。黒潮町には、地震の発生から2分ほどで津波が到達すると想定されている。また、会場周辺にはたくさんの民家があり、実際の災害時は避難訓練以上に混雑することは確かである。これらのことを考えると、避難は物理的にも無理だっただろう。また、分科会でも発表したことだが、私たちの学校は南海トラフ地震時、およそ7500人もの人々が避難してくると想定されている。そして、周辺は2～3m浸水する。私たちの学校には、既に900人以上がいる上、下の階は浸水するので最上階付近に大人数が集中することになる。そうなった場合、

震災後の生活はどの様になるのだろうか。このようなことを考えると、今現在私たちが行っている校内での避難訓練や防災教室だけでは不十分ではないかと、私は考える。過去の大災害の後、避難した人々の生活はいわゆるアウトドアのようなものだった。私は、災害後の過酷な生活に対応するためには、全国の学校において、防災を考える授業やクラブ活動を導入し、普段から寝床の確保、非常時の調理、簡易トイレの利用など、実践的な活動を行うようにすればいいと思う。正しい知識や技術を身につけ、防災に対する意識を持つておくことが大切である。まずは私たちの学校で、生徒主体で行われればいいのではないかと考えている。

37. 今日のサミットに参加して、国によってそれぞれ対策方法が違うので、それをもっと共有したいなって思いました。地形や位置など、国によってその国に合った対策をしなくては行けないけれど、他の国のアイデアを聞くことで、自分の国に生かせたり考え方が広がると思うからです。そこで参加者の私たちが間に入って、世界をつなげていけたら良いと思います。まず実施したいのが、地域や学校への発信です。私たちが参加したことや、その内容を知って防災を考えるきっかけになってほしいと思います。私は新聞部なので、校内新聞に載せたいと思います。また、課題研究の発表会なども使って発信していけたらいいなと思っています。日本の英語力のなさや海外の英語力の高さに驚いた。これから生きていく中で英語を話すことができる世界が広がると思った。また日本では東日本大震災後、防災意識が高まり、避難訓練を行ったり、講演があったりして津波や地震がとても身近になったが、海外では日本ほど訓練していないと感じた。また、収入の格差や教育の格差で国民全員が平等でないために津波、地震に対しても意識の違いがあることがわかった。このようなことは日本にいたり日本人達だけと話をしたりして分かることではないのでとても良い経験になった。
38. 最も印象に残ったのは、参加者の一人一人がとても熱心に津波や地震について考えていたことだ。私はこのサミットに参加するまで津波や地震について考えていなかったから、みんなのプレゼンを聞いて真剣に深く考えることができた。学校の友人たちとも、このサミットで得たものを共有できるようにしたい。また、外国の人々は英語を母国語としなくとも、とても上手で驚いた。同じチームだった外国の人と色々な話をしたり、意思疎通をしたりするのがあまり上手に出来ず悔しかった。英語をもっと勉強して、もしまたこのような機会があったら次は今回よりコミュニケーションがとれるように頑張りたいと思う。
39. まず、外国の同年代の人と交流できたのがとても良かった。また、その人たちと一緒にディスカッションをするという貴重な経験ができてとても良かった。このようなイベント(?)にまた参加したい。これからは、学校周辺が実は危険であること、避難の方法について考えたい。城南には7500人避難することになっており、現状は無理であるから、その解決策を見いだしていきたい。事前調査で問題点がいくつか浮かんできたので、その解決に携わりたい。今回の話し合いを無駄にしないように行動する。

40. 最も印象に残ったのは東日本大震災からの報告です。実際に大津波を経験した人の話を聞いて、津波の知識がないと助からないと思いました。“津波は一瞬で町を破壊した”という言葉が本当に適切な表現だと改めて気付かされました。自分は津波被害のないところに住んでいるから大丈夫と思っている人もいます。このサミットに参加するまで私もそう思っていました。でも地震はいつどこで誰という時にくるか分かりません。誰もが津波の被害にあう恐れがあるということを伝えていきたいと思いました。
41. 事前の調査活動を行うことで、自分たちが知らなかった地元の課題を知ることができてとても勉強になりました。自然現象を防ぐことはできませんが、過去の経験を真摯に受け止め、対策を練り、受け継ぐことで、被害の拡大を防ぐことはできると思います。今回のサミットには、「被災地からの声」が1人でも多くの命を救うことつながればという思いで参加しました。分科会の中ではありますが、自分たちの思いを伝えることができたと思います。海外での取り組みなど、新しく知ることができた事なども含め、サミットで得た経験を多くの人に伝えていきたいと思います。
42. 多くの海外の高校生や他県の高校生と仲良くなれたことが一番印象に残りました。たくさん交流できて楽しかったし、うれしかったです。被災地からの参加ということで、自分たちの経験を多くの人に伝えて、役に立ててもらえることを目標にして今回のプログラムに参加しました。しっかりと伝えることができたと思います。海外の高校生から、様々な防災対策に取り組んでいることを聞くことができ、とても勉強になりました。今回の経験を学校で伝えたいと思います。
43. 様々な点で有益なことがありました。津波のことに関しては勿論ですが、普段話せないような外国人と英語でコミュニケーションできたというのは非常に良い経験になりました。英語を使うことに対して自信を持てるようになりました。
44. 自分達は、日本を中心に考えていたのですが、海外の同じ年の子達と喋ることによって自分達の提案は日本だけでなく世界に通用させることができるかもしれないと、新たな可能性を見つけることができました。また、海外の子達はとても意識がたかく良い刺激にもなりました。自分達の防災等のことについても真剣に取り組むことができ、海外の人と繋がりを持って文化などを知ることでもできとても素晴らしい機会だったと思い、参加したことを本当によかったと思います。
45. 分科会を通じては、少々英語が理解できなかった部分もあったが、様々な学校や国の状況、提案などあらゆる視点からの発表があり、とても勉強になったし、「防災」というものが万国共

通の課題だったのだと思った。最も印象に残ったことでは、東日本大震災被災地からの報告である。私たちにとっては5年も前の話だと思っていたが、被災地の方々からしたら、どれほど苦しく、つらい5年だったのだろうかと考えさせられた。報告していただいた方からとても信じられないような現実を聞いて、今までにもニュース等で見聞きしたことではあるが、目の前で話していただいたことで、実際の音声としてより実感できた。つらい現実・過去から逃げずに、あのような発表をしている方々にとっても感謝している。学校でできることは、分科会であったような「高校生にできること」になるが、防災についての学習や避難訓練など誰にでもできるようなことを率先してやりたいと思う。防災といっても、国や県でできるのはあくまで被害を減らすことだけなので、その被害をほぼ0に近づけるには、やはり国民一人一人がそれらの危機を理解し、災害に向けてしっかりと対策をしないといけない。とても刺激的で有効な2日間だった。ありがとうございました。

46. 今回津波サミットに参加したことは予想以上の体験になった。驚くほど規模が大きく、刺激も多かった。分科会でいろいろな国の高校生とプレゼンしあい、アクションプランをまとめた分科会は準備の成果も出せて非常に充実感があつた。東日本大震災の体験談は衝撃的だったが貴重な話を聞けたと感じた。宿舎での生活もみんなと仲良くなれて楽しかった。全体的にすごく良い経験になったので、学校ではこのようなプログラムに積極的に参加することを友達やクラスメイトに勧めたい。
47. この津波サミットに参加して、世界では地震や津波以外の自然災害によって大きな被害を受けているところも多く存在していることを改めて感じました。日本では2011年に起きた東日本大震災によって多くの犠牲者がでました。私は今までこの東日本大震災がものすごく大きな被害をもたらしていて、地震大国である日本に住んでいることはほかの国より怖いのだと思いこんでいました。けれど今回の分科会で他の学校や他の国がいろんな場面の災害に対する備えについてプレゼンテーションをしていて、日本だけが災害にあっているわけではないのだと感じました。例えば内陸の国では洪水の被害、ある国の島では台風の被害があることを知ることができました。その後のディスカッションで各災害に対する備えについて話し合い、そこでいろんな災害がある中、高校生としてできることを話し合うことができました。もっと世界は広いものであると実感しました。私が今までに見てきた世界をとっても狭く、世界中には様々な環境の中で暮らしている人がいると感じました。日本では常にいつ来るかわからない地震、津波に備えて暮らしていくことが必要で、そのためには地震、津波に関する知識を知ること、知識を得た上でその情報を伝えていくこと、そして災害時に自分がすべきことを理解し行動することが大切であると思います。また、世界には常にリスクを抱えている人やリスクの高い地域に住んでいる人がいることを認識することも重要であると思いました。このことを少しでも多くの人が知り、伝えることが必要だと思います。そのために今、高校生として私たちができることは学校などの小さいコミュニティなどを通して、自分たちが災害時に何ができるのか、

何をすべきなのか、備えとしてなにをすべきなのかを発信していくことだと思います。これを実行していきたいと思っています。

48. 今回の津波サミットで最も印象に残ったことは、海外の生徒と日本国内の生徒と情報を共有し、考えを共有することができたことです。世界では、様々な災害が発生していて、その時の状況やどのように対策したのかなどはその場に行かないとわかりません。しかし、今回のように世界中の高校生と、どのようにしたら自然災害と共に暮らしていけるのかを考えていくことができたことは、災害に対する知識を増やすことができ、私の中でとても貴重な経験になりました。特に、自分と同じ年代の人と情報を共有することができたことで、世界中の高校生がどのように考えているのかを知ることができたのは、これからの防災に対する意識や関心を深めていくにあたって、とても重要なことだったと思います。また、今回のサミットでは、津波などの自然災害の知識だけでなく、様々なスキルを身につけることができ、自分に足りないことに気づききっかけにもなりました。分科会でのディスカッションでは、いかに互いの意見や考えを引き出せるかが重要になり、そのためには、相手の意見を上手に聞きだすための質問の仕方が問われてくるのだと思いました。私は、この津波サミットに参加して、もっと多くの若者が、地震や津波などの災害のことを知り、それに対する防災の知識を持つべきだと思いました。災害は、起きた直後は、人の記憶の中に残ります。しかし、時間が経てばたつほど災害に対する意識が薄れていきます。これは、災害だけでなく、戦争なども同じことが言えると思います。この状況が繰り返されてしまうことで、災害の被害が大きくなってしまふのだと思います。そこで、高校生の私達だからこそ、これからのために、災害に対する知識を身につけ、防災のために何ができるのかを考え、行動に移していく必要があると思います。自分たちが大人になったときにこのサミットで学んだことが無駄にならないように、これからの生活に活かして生きたと思います。
49. 今回は「津波」サミットであったが、国によっては洪水や台風についての対策を考えている国もあった。グループディスカッションの中ではそれらを津波とつなげることに苦労すると思っていたが、同じ災害であり、対策として高い所に逃げるなど共通点は沢山あった。それぞれの国や地方によって必要なものであったり、一番大切なことは違っていた。そしてどの国もそれぞれ高校生としてできることを取り上げ、すでに行動をとっているところもあった。今回私達は司会校であったため、全部のプレゼンテーションを通してアクションプランを考えることができるようにリードしていく必要があった。私達にも知らないことがたくさんあり、勉強になった。そのため私達が進めていくだけでなく、みんなのサポートもあり、しっかりとグループディスカッションになっていた。これはとても良い経験になり、最も印象に残っている。学校では今後報告の場を設けられればいいと思っている。私達の体験したこと、勉強したこと、また他国の災害時のことなど伝えたい。私達も知らないことが沢山あり、学ぶことができた。今度は私達の学んだことを発信し、より多くの人に知ってもらいたい。また、その話を聞いてアクションを起

こしたいと思う人が出てくるといいと思う。今後**実施したい事としては私達のアクションプラン****を実行することです。**レベルの高い内容を書いているグループもありましたが、グループのまとめ、そして私達の学校としても実現可能なものに焦点をあてていきたいと考えました。そのプランは災害の前、災害時、そして災害後の3つのカテゴリーに分けた。災害前としては、備えについて知ってもらえるよう SNS の活用や積極的に避難訓練に参加する等アイデアを出す。そして災害時には身体面でのサポートができることだと思う。もちろん災害が起きないことを願いたいですが私達が自然をコントロールすることができない。そのためお年寄りや障害をもった方の手伝いや避難所の場を明るくするなど高校生の力を発揮したい。そして災害後は忘れられてしまわないよう、被災地を訪問したり、体験したり、話を経験した方にさせていただくなどする。このように3つの段階で私達高校生がアクションを取って行けると思う。今回のサミットではたくさんの人と交流することができ、たくさんのことを学ぶことができた。今後はもっと災害に対してできることを知り、備えられるようにしていきたい。

50. 印象に残ったことはいろんな人と出会える楽しさです。僕はこれほど大きなイベントには参加したことがなかったのですごく緊張する場面も多くありました。参加する生徒も立派ですごく知識が高いひとばかり参加すると僕はおもっていました。実際そうでした。けれど、皆とても優しくいろんなことを一緒に相談するのがすごく楽しかったです。僕はいろんなことを人と相談するのがとても好きです。なので、学校の授業とかで友達と相談するのもとても楽しいと思っています。でも、津波サミットでは格の違う楽しさを味わえたと僕は感じています。津波サミットに参加することによって自分の自信も高まり、もちろん津波の知識も増えましたが、それだけではなく幅広くいろんなことを勉強できる体験でした。このイベントに参加して自分のどこかが変わったような感じがします。また機会があれば是非とも津波サミットに参加したいです。
51. 今回のサミットを通して、大きなテーマである「災害」についての知識が深まったのはもちろん、他国の同じ年代の人達と交流することで、環境が違えば考えることも話すことも皆違って「こんな考え方もあるのか」ということに気づく機会を得ることができました。今まで触れ合ったことのない国の人達と共に1つのテーマについて様々な視点から考察することができて、自分の視野も広がりましたし、改めて自分のいた世界は狭かったのだということに気づくことができました。また、**同じ日本に住んでいる高校生にもたくさんの影響を受けました。自分の英語に自信がなくても、何とかして相手に伝わるように努力している友達の姿を見て、自分も、もっと積極的にならなければいけないと感じ、勇気を出して他国の人に話しかけ、英語が通じた時は、言葉には表せない喜びを感じることができました。**これからは、自分が今回体験した事を、後の世代にも体験してもらえるような仕事がしたいと思いました。
52. 正直、自分と同じ高校生だからある程度英語を話せたりできるくらいだと思っていたが、実際にはかなり流暢に話すひとばかりで自分の英語力の低さを実感した。

53. 僕は、このサミットを通しての活動において、普段の生活では絶対にできないような有意義な経験を沢山させて頂いたと思っています。海外、他県の高校生との交流を筆頭に、自分の住む神奈川県以外での防災への取り組みを知れたことなど、得た知識、経験などを挙げればきりはありませんが、**どれも僕にとっては最高の経験です。**特に、「英語を勉強してきてよかった」という思いを抱けたのは、僕のこれまでの、もしくはこれからの人生において大きな意味をもたらしたと思います。参加者ほぼ全員が英語を使うという状況の中で、世界共通語である英語の存在の大きさ、そしてありがたさを痛感したのです。海外の生徒との会話の際には、今まで蓄えてきた知識を総動員したものの、簡単な文法、簡単な単語しか使えませんでした。それでも海外の生徒と会話できたのはとてもうれしいことでした。もし英語ができなければ得られないものも沢山あったと思います。それと「人と話すこと」の面白さを実感できたのも大きいと思います。自分、そして他人の意見を元に会話をし、それらを洗練していくというのが楽しくてたまらなく楽しかったです。普段は友達と話すこともない津波や防災に関する話ですが、知識の蓄えがあるだけで一気に実のある話になるというのは驚きでした。上に挙げたように、僕がこの一連の活動を通じて得たものは、自分の内面に関することばかりです。他人にもかかわること、例えば他校が挙げた具体的なアクションプランなどが自分の学校で発表をする際には有用なんでしょうが、下調べをしたのも自分だし、行って発表して経験を得たのも自分なので、結果的に物事が還元されるのは自分だけでいいかなと思っています。しかし、アンケートやプレゼンの指導など、協力してくれた人も沢山いたので、その人たちにはどういった還元をするか、というのがサミットを終えた私たちに残された課題でしょうか。
54. この度のサミットのプログラムでは、特に東日本大震災で被災した高校生の話が印象に残っています。どれだけ新聞やテレビで報道されたとしても、**5 年前のあの災害は自分の中では現実感に乏しく同じことが自分にも起こるかもしれないという危機感は抱くことができていませんでした。彼らが自身の言葉で語る経験には強い力があり防災と無関係に生きていくことはできないという事実を思い出させました。だからこそ、このサミットをあの 3 日間だけで終わらせたくないし、終わらせるべきではないと思います。**防災の必要性を強く感じた以上、その思いをこれからの行動に反映させて、自分たちの地域社会に還元させていくことが必要だと思います。
55. 世界各国の人が災害に対しての危機感がとても伝わってきました。また、様々な意見や防災に対する工夫などが多数ありより良いディスカッションになり防災・減災に対する考えが深まりました。そして高校生という国の将来を担う若者が国の将来を考える機会はずっと増えてもいいのかなと思いました。
56. このプログラムを通して、私は他校との交流の意義や意味を感じました。これまでに本校は

他校との交流を行ってきましたが私自身は積極的に話しかけることができず、お互いに意見交換を行うことが出来ていませんでした。そんななかこのプログラムに参加して思いきって話しかけてみると、日本語、英語問わず、話すことが楽しく、また、より様々な考え方を見つけることができました。特に英語は自分の言いたいことが伝わって会話できた瞬間の充実感や達成感を味わうことができ、とても有意義なものであつと思いました。このプログラムで私たちは2つのアクションプランを提案しました。1つは減災アクションカードゲームをその地域に合わせて(現地化して)実施すること、そしてもう1つは近隣の他校と交流することです。私たちは自分たちが提案したアクションプランをまずは自分たちがもっと積極的に行っていくことが必要だと思っています。これからはこのような活動を増やしていきたいと考えています。

57. 今回の活動の参加が、自分にとっては初めてのサミット関連の活動への参加でした。学校からの活動への参加を呼びかけられた時点では、あまり災害や防災への興味はあっても、知識がありませんでした。しかし、今回の活動への参加や、事前の準備などを通して、新たに色々なことを学べたと思います。また、国内外の生徒との新たな関係を築き、意見を交流するなどのとても貴重な経験をさせて頂いて、本当に感謝しています。これからの世界を担う存在として、今回の活動はとても良い経験になりました。また機会があれば、参加したいです。
58. まず、外国の自分たちと同じ年齢の子たちと交流する機会があまりないので、今回のサミットはとてもいい経験になりました。ディスカッションにおいて、自分たちの意見を英語で言うと言う事がとても難しく、本当に伝わっているのか不安でしたが、相手国が相づちをうってくれたことにより分かってきていたのだなと思えることが出来ました。宣言文において、私たちの学校が提案したことが承認されたので、爪痕を残すことが出来、この宣言文がこれからの私たちに繋がるものになったのではないかと思います。
59. 分科会でのアクションプランの共有、ディスカッションが最も印象に残っています。例えば、自国で地震が起こらないが、アクションプランを考えている国の意見は本当に新鮮で、今まで見ていなかった部分も浮き彫りになり、視点が広がりました。他国の友人ができる。これが世界津波サミットに私が参加した大きな成果でした。互いの国の災害に対する知識を持ち、もし災害が起こった時助け合うことが出来るからです。東日本大震災の時、たくさんの外国の方が日本に対して手を差し伸べてくれました。世界との結びつきは防災、減災、復興の視点においてすべてに有用的であると言えます。自分たちがその結びつきの架け橋となることで自分たちから周りの人に、人から人へ一つの輪ができます。また、今回津波サミットに参加して、言語の壁は越えることが出来ると確信しました。英語で訴えるのは、確かに難しいことです。でも、伝えようとする気持ちがあれば相手は分かってくれる。ディスカッションをする際、自分たちが訴えたかったことが上手く英語にできませんでした。それでも、向かい側に座っていたマレーシアの子が「こういうことですか?」と逆に質問してきてくれたり、頷きながら話を聞いて

くれたりして、私たちは伝えることが出来ました。言語の壁を超えることができた、この瞬間を私は今でも忘れられません。未知のことを国関係なしに、模索する。フィールドワークであった、避難訓練の形式は私も、外国人もはじめてでした。どのように感じたかと聞くと、「自分たちの国では火災に対する避難訓練を年に2回しかしないので、このような形式の避難訓練ははじめてだった。命を守るために必死に助け合う姿が避難訓練にはあって、すごいと思った。」と言っていました。当たり前のように日本ではどこの学校でも避難訓練をしますが、それが非日常的なことである国が多く存在していて、私たちが彼らに身を守るために伝えられることがたくさんあるのだと新たな気づきを得ました。災害時に向けた対応を私たち高校生が一緒になって考えることで、よりリスクが軽減すると考えます。それだけでなく、そこにはたくさんの意味があって互いに大きな学びとなったと考えています。参加してよかった。心からそう思います。

60. 世界共通言語である英語を用いて多くの国と交流し、互いの国の津波への関心の違いや避難訓練の現状などについて意見を交換することができました。そのなかで、うまく英語で伝えられないところは自分の知っている簡単な単語に置き換えて話をしたり、積極的に話を持ち出し内容の濃い意見交流ができました。慣れない英語だけれど、まずは自分から積極的に話、チャレンジすることが人と繋がるには1番の近道で、大切にすべきだと思いました。
61. 各国で様々な防災対策が行われていることが分かり、また、被災された方々のお話を聞くことができたことで、自然災害に対する危機感を肌で感じた。そして、様々な国や地域の高校生と話したり、ディスカッションを行うことで、英語を話すことの必要性和楽しさを感じることができた。また、自分自身の英語力が他校の生徒の方々と比べ、劣っていると強く感じた。この悔しさを忘れず、今後の英語学習を一層頑張っていきたいと感じた。また、文化や風土が全く異なる他国の人たちとでも、英語を通してコミュニケーションを図ることで、通じあえるということにとっても感動した。そして、今サミットを通して学んだ英語の重要性和防災対策への意識の大切さを自分のものとし、家族や友人、地域の方々にも伝えていきたいと強く思う。
62. まず、他の日本の高校生の方々は英語をスラスラと話されていたので、自分たちの英語力の低さを情けないと感じました。しかし、今できる限りの会話ができただけでもとても良かったです。他国の人たちはみんな陽気でノリがよかったので、私ももっとフレンドリーにならないといけないと感じました。日本の災害もとても大変なものだと思っていましたが、外国で起こっている津波や水害はもっと深刻なものだと感じました。これからはグローバルな視点で、世界中が一体となって助け合い、復興していくことが大切だと感じました。今後は是非JICAの活動に参加してみたいと思いました。そのために、自分の英語力や会話力を磨いていきたいと感じました。

63. 海外の国々でも様々な災害が起こっていたことにとても驚いた。また、その対策として、その国々の地形に合った防災対策がなされてることも知ることができた。また、東日本大震災で被災された方の生の声を聴き、改めて津波の恐ろしさやその被害の甚大さを再確認し、私たちが住む地域における防災対策についても見直す必要があると強く感じた。会議の中では海外における防災対策と、私たちが住む地域における対策の違いを把握することができ、今後更に効果的な対策を行うにはどうすべきかに関する知識を得ることができた。サミット開始直後はとても緊張していたため、自ら海外の方々へ話しかけることができなかったが、海外の方々のフレンドリーなコミュニケーションのおかげで何とか意思疎通を図ることができ、自分自身の英語についても自信を持つことができた。様々な活動の中でも、私は特に避難場所の見学が心に残っている。実際の避難場所を目にすることで、想定される津波の大きさや恐ろしさを肌で感じることができ、今後こうした訓練が本当の意味で大切になってくると感じた。今後は今回のサミットで学んだことを、私の専門である土木において活かしていきたいと考えている。また、日本の他の参加高校の英語力の高さも目の当たりにしたため、自分自身の英語力の低さを改めて感じる事ができた。今後はこの気持ちバネに更に英語学習に力を入れていきたいと感じている。来年の2月には本校のSGH発表会が開かれるが、是非そこで今回学んだことを多くの方々に伝えたいと思う。
64. 津波について世界各国の高校生と話し合うことができ良かったです。実際に津波が来たことを想定して避難訓練を行ったことで、具体的にイメージすることができました。私はこれまでこのような企画に参加したことがなく、今回が初めての経験でした。これまで外国の方々ともコミュニケーションをとったことがあまりなく、今回のサミットで得た経験は全てが新鮮でした。外国の同じ高校生でも、国によって様々なで、とてもおもしろかったです。初めは実際に話をしてみて、自分の英語が伝わるかどうか心配で、緊張するあまり、なかなか話しかけることができませんでした。しかし、実際に話してみると皆がフレンドリーでとても話しやすく、私の英語がなかなか出ない時も、しっかり待っていて、私が上手く聞き取れない時には分りやすく言い換えてくれました。このようなコミュニケーションを通して私が一番感じたことは、伝えたい気持ちがあれば、相手には下手な英語でもちゃんと伝えられるということでした。サミットに参加した2日間はとても充実していて、素晴らしい経験をする事ができました。また、今回のサミットで自分自身の将来の夢に新たな選択肢を持つ事ができました。
65. 今回のイベントを全体的に見た感想はとても楽しくて勉強にもなって、サミットが成功して本当にいいところに行けたと思います。まずはじめに、沢山の市民の人たちに大歓迎をしてもらって、マスコミも沢山の市民に本当に驚いた。その時に、このサミットがとても大事で影響力のあるものだとうわかった。そして、自分の使命感が強まったとともに、自分はすばらしい機会を得たという事を実感して、なぜかしらわくわくしてきた。そして体育館の中に入って、沢山の国旗が並んでいるのを見て、とてもかっこいいと思った。自分がこの中の一つの国、日本の代表の一

人であることを実感して、とても貴重な体験をさせてもらっていると思った。また、オセアニアなどの地域の国々も来ていてほとんど関わることをできないような国から来ている人達と出会えて、とてもうれしかった。これもとても貴重な体験だった。自分のチームには、トンガ、チリ、ブルネイ、中国から来ていて中国以外はどの国も関わるのがとてもレアだと思うのでいい経験になった。初めて聞かれるような国で、その人達の性格がとてもオープンで彼らの文化を知ることができた。津波が最大34mに達するかもしれないと知った町の人々は逃げるのを諦めた人もいて聞いて衝動を受けた。でも確かに自分をその身において考えてみるとつらくて絶えられないかもしれない。でも電車に乗った後に町の人々が沿線から見送っているときに、とても笑顔で送ってもらえた。それを見て、自分たちのような若い世代に彼らを助けて勇気づける大きな使命があると痛感した。津波避難タワーに行き、国ができるだけ多くの人の命を助けようとするところを見た。でもそれだけではなく、自分たちにしかできない色々な面からのサポートをしなければならないと感じた。これを広げなければいけない。もっとたくさんの人に知ってもらわないといけない。まだまだやるべき事があると思った。

66. 印象に残ったことは、高知県のあらゆる所に防災倉庫が設置されていたことです。あまり関西に防災倉庫を見ることがないので、もっと全国各地につくるべきだと思いました。また、津波タワーというものを初めて見たので、とても良いと思います。津波が来たら、どれだけ高く逃げられるかが問題だと思うので、人工的につくられた避難場所を、他の町にもつくって欲しいと思います。私は12月20日学校で行われるWarmHeartという震災復興プロジェクトで今回の津波サミットについて10分程度発表する予定です。津波サミットが終わってから今回のサミットについて何を友達に伝えるべきか考えました。私は、今、もし地震があつて自分の住んでいる所に津波がきたら、もちろん自分の命と家族の命を守ろうと努力はすると思いますが、100%命を救えるという自信はありません。私は震災復興に興味があり、防災についても考えることは多いです。私のようにあまり震災のことを意識せず、日々生活をおくっている人々は、南海トラフが起きても命を失くさないということは断言できないと思います。そんな人々の震災に対する意識を上げることが、私たちに求められていることだと私は考えています。なので、今回ディスカッションを通して得た世界の人々の意見や提案を学校で伝え、自分の命を家族の命をいかに守るか、一度考えてもらいたいと思っています。また、私自身のボランティア活動に対する意識も今以上に上がり、とても良かったです。これから先、世界中で震災、災害は必ず起こります。それがたとえ日本でも海外であってもできるだけ多くの人の命が助かるように若き防災大使の私たちが世界中の人々の意識を上げることが求められてくると思います。一人でも多くの人に津波についての知識をつけてもらい、世界中の人々がいつ震災が起こっても準備と心構えができるように、このサミットで得たアクションプランを使って津波から命を守ることができるようにするべきだと思います。津波サミットに参加できたことは私の中で大きな刺激となり意識向上につながりました。ありがとうございました。

67. 今回のプログラムに参加して、まず会場に入った時、自分が想像もしていなかった位の高校生がいて、これだけ沢山の高校生が防災や復興について話し合うために、この会場に集まったと思うと、自分もその一員になれてとても光栄で、よかったなと思いました。分科会では様々な国の高校生の防災についての考え方や見方を見れてよかったし、とてもいい機会になりました。また、分科会で自分の国の防災や復興についてプレゼンをしたのも良い機会となりました。私は分科会で司会をやらせてもらいましたが思ったより大変で、自分の力不足を感じた事もありました。司会をしたことはとても良い経験になったし、改善点もたくさん見つかったので次回またそのような機会があったら活かしていこうと思います。学校に戻ったら、津波サミットで学んだこと、(フィールドワーク)などをできるかぎりの人に伝えられたらいいなと思いました。津波サミットで知り合えた人たちと連絡が途切れないようにして、将来何らかの形でまた一緒に活動したりすることができたら良いなと思いました。
68. 今回のプログラムに参加して、私はたくさんのことに気づき、学べた気がします。数ヶ月前に参加することが決まって、少しずつですが、準備し始め、学校で似たようなフォーラムと期間が少し近かったですが、学校の方では貧困について、サミットでは防災についてという違う視点からの議論を短期間で経験することができました。私自身防災についての意識はこのサミットに参加するまであまりなく、知らないこともたくさんありました。しかし、実際にこのサミットで東北からの体験談を聞いたり、他国の状況、対策を聞いて、もっと危機感をもつようにしなければいけないと思いました。特に印象的だったのは、避難訓練所で高台に行って、雄叫びをする前の小学校の校長先生のお話でした。小学校を守るために、多くの人を守るために避難訓練を週1回にしたことです。たしかに私たちの住んでいる場所は黒潮町に比べ海も遠いかもしれません。しかし、人口は多いし、危険な場所も沢山あります。山のような高台も少なく、私たちももっと避難訓練を練習すべきだと感じさせられました。私は総会でグループ代表として報告させていただくことができました。英語もあまり上手でなく、原稿もまわりの人たちの協力のもとできました。緊張しましたが、普段のあのような場で話せるような人ではなく、私は何か一歩ふみ出せた気になっていました。まだ人に頼ってばかりで、自分の力ではできないことも多いですが、あのような機会があったことに感謝しています。このサミットでは本当にたくさんの国から参加されていて、いろんな文化も知ることができました。温かい人たちが多く、自分の学校でも交流をもちたいと思った学校も多くありました。このサミットを開催してくださった方々、学校の先生、他国の同じグループの人、一緒に頑張った友達とは感謝しています。ありがとうございました。

Ⅲ 海外高校生感想文 抜粋

1. 帰国後は自国の人に経験を伝えたい。校内では話し合いの機会を設け、地元の新聞に日本

での経験を投稿し、また地元の人の意識啓発のためイベントを開催したい。多くの人に助けをもらうことになるが、ぜひ実現したい。(ブルネイ)

2. 自然災害から身を守るための知識を、校内や地域で共有する。また可能であればこの経験を国外で伝え、自然災害についてその国の人と学び合いたい。そしてその新しく得た知識を自分の学校や地域の発展のために活用したい。(カンボジア)
3. 帰国後に、学校では、新しい避難訓練、インフラ整備、地域の強靱化、若い人でボランティアグループを作り、計画を立てることを進めて行きたい。このような活動で啓発を効果的に行うことが大切であるため、心に留めておきたい。(チリ)
4. 普通の高校生として、災害の被害を軽減するためにできることは限られている。それでも「意識(awareness)を持つこと」が重要だと思う。このサミットは世界津波の日(World Tsunami Awareness Day)高校生サミットと名付けられているからだけではなく、犠牲者をできるだけ減らすための方策は以前よりも確立されているため、意識を持つことの重要性を認識しなければならない。国民の意識をどう高めるかが自分たちの課題である。(中国)
5. 災害を体験した人から、その影響や自分たちが何をすべきかを学ぶことができた。(フィジー)
6. 分科会で話し合ったことや、自然災害に襲われた地域でのフィールドワークの経験を校内で伝えたい。(ギリシャ)
7. 壁に掲示されていた津波の標識は初めて見たため、興味深かった。自国でも使いたい。(インド)
8. サミットで防災について学ぶことができた。自国に戻った後には、他の高校の生徒や地域の人、また家族にも、今回得た知識や経験を共有したい。若い世代は防災には大きな責任を持っていると思うため、自分が住む地域に対して防災のために何かができる。アクションプランでは、ソーシャルメディアを利用したキャンペーンや防災や災害に対する備えに関する情報提供セッション、精神面を扱った研修や避難訓練・災害への備えクラブのように、高校生の知識を高めるためのプログラムを提案した。このようなプログラムをアチェで実現したい。(インドネシア)
9. 避難訓練が一番思い出に残っており、効果的な減災を目指して実行するように自国で勧めていく。来日後2日目に起きた軽い地震では警報システムが作動し、とても重要な経験であった。効果的な警報システムを開発し効率的に減災や災害防止のために市民に警告すること

がよいと思うため、自国で働きかけていきたい。(ケニア)

10. 今回学んだ知識や情報を、自分の住む地域で必ず伝える。その情報が国の発展につながり、国民全体の知識が高まればよいと思う。(ラオス)
11. 災害の際に行うべきことについて有益な知識を多く学んだ。実際に避難訓練も経験したため、万一の場合もパニックにならなくて済むと思う。(マレーシア)
12. 自国で意識啓発の活動を立ち上げ、勧めると共に、今回のアクションプランを自国の状況に合わせて実行したい。自分たちの目標に向かって行動する時が来たと思う。一緒に努力すれば世界に変化をもたらすことができると信じている。(モルディブ)
13. 各国が発表したアイデアや知識に深く同意する。自然災害を乗り越えるための知識をたくさん学んだ。お互いに協力をしなければ、現在の課題に対する解決法を見つけるところまで至らなかったと思う。「一緒なら立ち上げられるが、バラバラなら倒れてしまう」ということを胸に刻みたい。(マーシャル)
14. 津波やその破壊力についてあまり知らなかったが、サミットで多くを学んだ。訪問先やそこで出会った人に深く心を寄せる機会があり、そのことを決して忘れない。津波で愛する人を失った方を気の毒に思う。(ミクロネシア)
15. 自国に戻ったら、友人や校内、また社会全体に今回学んだ知識を必ず伝える。友人には津波の際の避難の仕方、自然災害の脅威にさらされることなく自然と生きる方法について教えたい。事が起こってから癒すよりも、予防するほうがよい。(ミャンマー)
16. サミットがあったこと自体が最も大切で思い出深いことである。話し合ってお互いのアイデアを理解したことは素晴らしく、また役に立つと思う。有益なアドバイスをたくさんもらったので、これをまとめて自国で伝える。(パラオ)
17. 最も興味深かったのは、各国の減災のシステムであった。フィジーではマングローブを利用して浸食を防いでいることが素晴らしく、また日本の減災のための高度な技術に驚いた。自然災害は防ぐことはできないが、システムを整備することで災害時も安全を確保できる。自然は美しく、時に危険であるからこそ、その美しさを愛でながら脅威に対して安全を確保するために努力したい。(パプアニューギニア)
18. 今回学んだことをもとにして、各地で命を救い、意識を高めるために、次世代を代表して声を

上げていこうと思う。(ペルー)

19. 自分は若き津波大使として、自分のアイデアや計画を他の人に広めていくために招へいされたのだと思う。努力して約束を果たし、素晴らしい大使になろうと思う。このサミットでは世界の人たちがつながって協働し、この世代や次の世代の時代がより良いものになるように協力することができた。(フィリピン)
20. 自分の学校の人、地域の人や、できれば自分が住む市や国の人に被災者の体験の発表を聞いて欲しい。自分達のアクションプランは自分の家族や友人、クラスメイトや世界中の人に広がっていくと思う。自分は特に自然の力を生かした減災に興味がある(植林など)。(ポルトガル)
21. サミットでは多くの友人ができ、自分にとって素晴らしい機会であった。このサミットをきっかけに各国が協力し、世界がさらにつながっていくと思う。(韓国)
22. サミットは忘れられないイベントで、たくさんの思い出が残った。帰国後は学校で避難訓練をするように勧め、分科会で話し合ったアクションプランを校内で共有したい。多くの国の人との交流では自然災害への備えについて新しいアイデアをもらったので、それも伝えていきたい。(サモア)
23. 日本の津波防災のヒーローであるヤマグチさんのお話に心を動かされた。津波の啓発や被害防止のために最大の努力をする意思があれば、「津波や自然災害による死傷者ゼロ」という高い目標を達成できるのではないかと強く思い、そのための努力をしようと思う。(シンガポール)
24. 自分の住む地域には避難タワーや避難場所がないため、タワーの建設を市長に提言したい。避難訓練もよいが、意識啓発の話を聞くよりもより実践的なことを学びたかった。避難訓練の時間は短かった。自然災害の危険性や、どう人を救うのかを実際に体験したい。自国では1年に1回避難訓練や啓発活動を行うが、1年に2回にすべきである。また、学校でも自然災害のリスクをどう減らすのかについて教えるべきである。(スリランカ)
25. 帰国後は校内でアクションプランを発表し、校内や国内の人にサミットでの経験を伝えたい。(タイ)
26. 自国では避難訓練に参加したことがなかった。今回の経験で、地震の際の安全の確保のしかたや、避難ルートの移動のしかた、またどこに避難するのかについて、多くを学んだ。この

知識を自国で生かそうと思う。サミットにより、他国と協力して減災や災害後の復興を行うために協力するというチームワークの精神を持つことができた。(トンガ)

27. 高知での交流会が一番思い出に残っている。多くの人と話し、最後には日本人とも楽しい時間を過ごした。(トルコ)
28. 自分の町であるハワイ州ヒロで、大きな津波災害に備えて見やすい避難ルートマップやよりよい防潮壁の整備を進めることを提案したい。(アメリカ合衆国)
29. 若き津波大使として、世界によい変化をもたらす責任を感じている。サミットの全てのことが思い出深い。(ベトナム)

以上